

(様式第10)

愛医病管第 104 号

令和6年 10月 5日

厚生労働大臣 殿

開設者名

学校法人愛知医科大学

理事長 祖父江 元

愛知医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和5年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
氏名	学校法人愛知医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

愛知医科大学病院

3 所在の場所

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1
電話(0561) 62 - 3311

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1	医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2	医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	有		
内科と組み合わせた診療科名等			
1呼吸器内科	2消化器内科	3循環器内科	4腎臓内科
5神経内科	6血液内科	7内分泌内科	8代謝内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11リウマチ科
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
1 呼吸器外科		2 消化器外科		3 乳腺外科		4 心臓外科	
5 血管外科		6 心臓血管外科		7 内分泌外科		8 小児外科	
診療実績							
小児外科は、消化器外科で診療実績としていること。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1 精神科		2 小児科		3 整形外科		4 脳神経外科	
5 皮膚科		6 泌尿器科		7 産婦人科		8 産科	
9 婦人科		10 眼科		11 耳鼻咽喉科 (5) 参照		12 放射線科	
13 放射線診断科		14 放射線治療科		15 麻酔科		16 救急科	

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
1 小児歯科		2 矯正歯科		3 歯科口腔外科			
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 神経科	2 頭頸部・耳鼻いんこう科	3 形成外科	4 リハビリテーション科	5 病理診断科
6 疼痛緩和外科	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
47				853	900

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	458	280	531.4
歯科医師	16	16	21.8
薬剤師	81	5	84.1
保健師	0	0	0
助産師	31	3	32.7
看護師	1020	22	1034.3
准看護師	1	0	1
歯科衛生士	5	0	5
管理栄養士	21	0	21

職種	員数
看護補助者	1
理学療法士	53
作業療法士	18
視能訓練士	9
義肢装具士	0
臨床工学士	28
栄養士	0
歯科技工士	4
診療放射線技師	64

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	70
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	18	
その他の技術員	44	
事務職員	109	
その他の職員	9	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	57	眼科専門医	17
外科専門医	52	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	6	放射線科専門医	16
小児科専門医	18	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	5	整形外科専門医	20
泌尿器科専門医	7	麻酔科専門医	11
産婦人科専門医	6	救急科専門医	12
		合計	251

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (道勇 学) 任命年月日 令和 3 年 4 月 1 日

医療安全管理委員会委員

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	724.7 人	13.4 人	738.1 人
1日当たり平均外来患者数	2,489.1 人	112.3 人	2,601.4 人
1日当たり平均調剤数			4,275.6 剤
必要医師数			215.04 人
必要歯科医師数			7.29 人
必要薬剤師数			78.04 人
必要(准)看護師数			455.76 人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要					
			病床数		心電計	有		
集中治療室	848.66 m ²	鉄筋コンクリート	病床数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	55 床 有 有	心電計 心細動除去装置 ペースメーカー	有 有 有		
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	243.39	m ²	病床数	15 床		
	[移動式の場合]	台数		台				
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積		16.11		m ²		
	[共用室の場合]	共用する室名						
化学検査室	566.47 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析装置、検体検査自動化システム				
細菌検査室	149.69 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	微生物分類同定分析装置、自動血液培養装置				
病理検査室	306.63 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	ライカBOND、ライカASP6025、サクラティッシュテックプリズマ				
病理解剖室	108.24 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	バイオガード対策解剖台、臓器写真撮影装置、ホルマリン希釈装置				
研究室	6,741.35 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)					
講義室	3,291.97 m ²	鉄筋コンクリート	室数	20	室	収容定員	2,084	人
図書室	1,976 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2	室	蔵書数	96,500	冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	90.8	%	逆紹介率	64.5	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		21,194 人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		17,352 人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		3,221 人		
	D: 初診の患者の数		26,875 人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
黒神聰	愛知学院大学 名誉教授		法律学に関する専門知識に基づいて、 教育、研究又は業務を行っている者	無	1
金森俊輔	瀬戸旭医師会 会長		医療機関において医療安全に関する 業務に従事した経験を持つ者又は医療 安全に係る研究に従事した経験を有 する者	無	1
浦川正	長久手市・副市長		医療等の内容及び説明並びに同意文 書が一般的に理解できる内容であるか 等、医療を受ける立場から意見を述べ ることができる者	無	2
祖父江元	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有	3
笠井謙次	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
ホームページにて公表している。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
	0人
	0人
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	0人
	0人
先進医療の種類合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	パーチェット病	36
2	筋萎縮性側索硬化症	28	57	特発性拡張型心筋症	5
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	1
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	30
6	パーキンソン病	171	61	自己免疫性溶血性貧血	2
7	大脳皮質基底核変性症	5	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8	ハンチントン病	2	63	特発性血小板減少性紫斑病	79
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	78	66	IgA 腎症	37
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	23
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	70	68	黄色靭帯骨化症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	13	69	後縦靭帯骨化症	47
15	封入体筋炎	5	70	広範脊柱管狭窄症	0
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	24
17	多系統萎縮症	24	72	下垂体性ADH分泌異常症	14
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	53	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	3	74	下垂体性PRL分泌亢進症	13
20	副腎白質ジストロフィー	2	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
22	もやもや病	14	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	21
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	109
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	32	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	58
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	20
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	5
32	自己食食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5
34	神経線維腫症	17	89	リンパ管筋腫症	3
35	天疱瘡	18	90	網膜色素変性症	8
36	表皮水疱症	0	91	パッド・キアリ症候群	1
37	膿疱性乾癬(汎発型)	6	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性胆管炎	19
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	11	95	自己免疫性肝炎	8
41	巨細胞性動脈炎	7	96	クローン病	88
42	結節性多発動脈炎	9	97	潰瘍性大腸炎	170
43	顕微鏡的多発血管炎	32	98	好酸球性消化管疾患	4
44	多発血管炎性肉芽腫症	17	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	26	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	3	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	3	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	236	104	コストロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	88	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	81	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	33	107	若年性特発性関節炎	7
53	シェーグレン症候群	26	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人発症スチル病	25	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	8	110	ブラウ症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	167	マルファン症候群 / ロイス・ディーツ症候群	0
113	筋ジストロフィー	5	168	エーラス・ダンロス症候群	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	169	メンケス病	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	0
117	脊髄空洞症	1	172	低ホスファターゼ症	0
118	脊髄髄膜瘤	0	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	2	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	0	175	ウィーバー症候群	0
121	脳内鉄沈着神経変性症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジドリン沈着症	2	177	ジュベール症候群関連疾患	0
123	HTRA1関連脳小血管病	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	2	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー病	0	181	クルーゾン症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	182	アペール症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリス症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスモンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	0
134	中隔視神経形成異常症 / ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	190	鯉耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	2
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソトス症候群	0
140	ドラベ症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マジニス症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	1
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	0	206	脆弱X症候群	0
152	P CDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	208	修正大血管転位症	1
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	209	完全大血管転位症	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	0
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	0
158	結節性硬化症	2	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0
160	先天性魚鱗癬	0	215	ファロー四徴症	0
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	0
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	15	217	エプスタイン病	0
163	特発性後天性全身性無汗症	40	218	アルポート症候群	4
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワット症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	276	軟骨無形成症	0
222	一次性ネフローゼ症候群	37	277	リンパ管腫症/ゴーム病	2
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
224	紫斑病性腎炎	3	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2
225	先天性腎性尿崩症	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	4
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	2	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	5
227	オスラー病	2	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
228	閉塞性細気管支炎	0	283	後天性赤芽球癆	1
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	16	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
230	肺胞低換気症候群	1	285	ファンconi貧血	0
231	1-アンチトリプシン欠乏症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
232	カーニー複合	0	287	エプスタイン症候群	0
233	ウォルフラム症候群	0	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
235	副甲状腺機能低下症	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸型)	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	292	総排泄腔外反症	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	5	293	総排泄腔遺残	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
240	フェニルケトン尿症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
241	高チロシン血症1型	0	296	胆道閉鎖症	2
242	高チロシン血症2型	0	297	アラジール症候群	0
243	高チロシン血症3型	0	298	遺伝性隣炎	0
244	メーブルシロップ尿症	0	299	嚢胞性線維症	0
245	プロピオン酸血症	0	300	IgG4関連疾患	22
246	メチルマロン酸血症	0	301	黄斑ジストロフィー	1
247	イソ吉草酸血症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
249	グルタル酸血症1型	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
250	グルタル酸血症2型	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
251	尿素サイクル異常症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	86
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	307	カナバン病	0
253	先天性葉酸吸収不全	0	308	進行性白質脳症	0
254	ポルフィリン症	0	309	進行性ミオクローヌスてんかん	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	0
256	筋型糖原病	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
257	肝型糖原病	1	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
260	シトステロール血症	0	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
261	タンジール病	0	316	カルニチン回路異常症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	1	317	三頭酵素欠損症	0
263	脳腫黄色腫症	0	318	シトリン欠損症	0
264	無リポタンパク血症	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
265	脂肪萎縮症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
266	家族性地中海熱	1	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
267	高IgD症候群	0	322	ケチオラーゼ欠損症	0
268	中條・西村症候群	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
271	強直性脊椎炎	15	326	大理石骨病	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	328	前眼部形成異常	0
274	骨形成不全症	0	329	無虹彩症	0
275	タナトフォリック骨異形成症	0	330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
331	特発性多中心性キャスルマン病	12			
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0			
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0			
334	脳クレアチン欠乏症候群	0			
335	ネフロン癆	0			
336	家族性低リポタンパク血症1(ホモ接合体)	0			
337	ホモシスチン尿症	0			
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0			
339	MECP2重複症候群	0			
340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	0			
341	TRPV4異常症	0			

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	114
合計患者数(人)	2,344

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医療DX推進体制整備加算	・ハイリスク分娩管理加算
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・呼吸ケアチーム加算
・歯科外来診療医療安全対策加算2	・術後疼痛管理チーム加算
・歯科外来診療感染対策加算3	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療感染対策加算4	・病棟薬剤業務実施加算2
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算
・救急医療管理加算	・入退院支援加算
・超急性期脳卒中加算	・精神科入退院支援加算
・診療録管理体制加算3	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・医師事務作業補助体制加算2	・精神疾患診療体制加算
・急性期看護補助体制加算	・精神科急性期医師配置加算
・看護職員夜間配置加算	・排尿自立支援加算
・療養環境加算	・地域医療体制確保加算
・重症者等療養環境特別加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・無菌治療室管理加算1	・救命救急入院料3
・緩和ケア診療加算	・救命救急入院料4
・精神科身体合併症管理加算	・特定集中治療室管理料2
・精神科リエゾンチーム加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・摂食障害入院医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・栄養サポートチーム加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・医療安全対策加算1	・小児入院医療管理料2
・感染対策向上加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・報告書管理体制加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準	・肝炎インターフェロン治療計画料
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算	・こころの連携指導料()
・糖尿病合併症管理料	・薬剤管理指導料
・がん性疼痛緩和指導管理料	・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料
・がん患者指導管理料イ	・医療機器安全管理料1
・がん患者指導管理料ロ	・医療機器安全管理料2
・がん患者指導管理料ハ	・医療機器安全管理料(歯科)
・がん患者指導管理料ニ	・精神科退院時共同指導料1及び2
・外来緩和ケア管理料	・歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・在宅患者歯科治療時医療管理料
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・救急搬送診療料の注4に規定する重症患者搬送加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・救急患者連携搬送料
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に規定する遠隔モニタリング加算
・腎代替療法指導管理料	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・下肢創傷処置管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・院内トリアージ実施料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・外来放射線照射診療料	・遺伝学的検査の注1に規定する施設基準
・外来腫瘍化学療法診療料1	・骨髄微小残存病変量測定
・連携充実加算	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算	・がんゲノムプロファイリング検査
・ニコチン依存症管理料	・先天性代謝異常症検査
・がん治療連携計画策定料	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・がん治療連携指導料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・外来排尿自立指導料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(SARS-CoV-2核酸検出を含まないもの)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)

・検体検査管理加算()	・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・国際標準検査管理加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)
・遺伝カウンセリング加算	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。)
・遺伝性腫瘍カウンセリング加算	・CT撮影及びMRI撮影
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・冠動脈CT撮影加算
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・血流予備量比コンピューター断層撮影
・胎児心エコー法	・外傷全身CT加算
・ヘッドアップティルト試験	・心臓MRI撮影加算
・人工臓器検査、人工臓器療法	・乳房MRI撮影加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・小児鎮静下MRI撮影加算
・単線維筋電図	・頭部MRI撮影加算
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・全身MRI撮影加算
・脳波検査判断料1	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・神経学的検査	・外来化学療法加算1
・補聴器適合検査	・無菌製剤処理料
・ロービジョン検査判断料	・心大血管疾患リハビリテーション料()
・コンタクトレンズ検査料1	・脳血管疾患等リハビリテーション料()
・小児食物アレルギー負荷検査	・運動器リハビリテーション料()
・内服・点滴誘発試験	・呼吸器リハビリテーション料()
・前立腺針生検法(MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの)	・がん患者リハビリテーション料
・CT透視下気管支鏡検査加算	・リンパ浮腫複合的治療料
・有床義歯咀嚼機能検査1の口及び咀嚼能力検査	・歯科口腔リハビリテーション料2
・精密触覚機能検査	・経頭蓋磁気刺激療法
・画像診断管理加算4	・救急患者精神科継続支援料
・遠隔画像診断	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・ポジトロン断層撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合を除く。)	・医療保護入院等診療料

・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
・硬膜外自家血注入	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・人工腎臓	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・導入期加算3及び腎代替療法実績加算	・角結膜悪性腫瘍切除術
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのもの))
・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法)及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・ストーマ合併症加算	・網膜再建術
・手術用顕微鏡加算	・経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術(型(拡大副鼻腔手術)及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うものに限る。))
・歯科技工加算1及び2	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・皮膚移植術(死体)	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・自家脂肪注入	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・骨悪性腫瘍、類骨骨腫及び四肢軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(垂全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法
・人工股関節置換術(手術支援装置を用いるもの)	・乳癌センチネルリンパ節生検加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・乳癌センチネルリンパ節生検加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・椎間板内酵素注入療法	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・緊急穿頭血腫除去術	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・腹腔鏡下胃縮小術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
・内視鏡下筋層切開術	・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下肝切除術
・胸腔鏡下弁形成術	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・胸腔鏡下弁置換術	・生体部分肝移植術
・経カテーテル弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・不整脈手術左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補助人工心臓	・同種死体腎移植術
・経皮的下肢動脈形成術	・生体腎移植術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)

・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))及び腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下仙骨腔固定術	・一回線量増加加算
・腹腔鏡下仙骨腔固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・定位放射線治療
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・体外式膜型人工肺管理料	・病理診断管理加算1
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)	・口腔病理診断管理加算2
・輸血管管理料	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・輸血適正使用加算	・看護職員処遇改善評価料60
・コーディネート体制充実加算	・外来・在宅ベースアップ評価料()
・自己生体組織接着剤作成術	・歯科外来・在宅ベースアップ評価料()
・同種クリオプレシテート作製術	・入院ベースアップ評価料69
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・
・歯周組織再生誘導手術	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・歯根端切除手術の注3	・
・麻酔管理料()	・
・麻酔管理料()	・
・放射線治療専任加算	・
・外来放射線治療加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
.	.
.	.

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二 年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	CPC 4回 カンサーボード 6回 各科合同カンファレンス 46回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	9
	剖検率(%)	1.2

)1 「臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況」欄については、選択肢の1・2どちらかを選択する(で囲む等)こ

(注)2 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
未感染肝細胞への感染制御によりHBV排除を可能にする新規薬剤開発	伊藤清顕	肝胆膵内科	75,400,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルス侵入機構の解明と侵入阻害剤による感染制御	伊藤清顕	肝胆膵内科	5,590,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
内視鏡的胆管内バルーンアブレーション治療に関する研究開発	井上匡央	肝胆膵内科	56,485,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
胆管空腸吻合部狭窄に対する新規内視鏡的治療法の開発	井上匡央	肝胆膵内科	500,000	補 委 内視鏡医学研究振興財団
経皮的冠動脈形成術後の重症化予防を目的とする遠隔行動変容支援と外来診療との効果的連携に関する研究開発	天野哲也	循環器内科	72,233,000	補 委 国立研究開発法人日本医療研究開発機構
肺胞マクロファージ解析による肺胞蛋白症の病態進行機序の解明	田中博之	呼吸器・アレルギー内科	1,820,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
機械感受性チャネルPiezo1とメカノセンサーを標的とした呼吸器疾患の病態解明	伊藤理	呼吸器・アレルギー内科	650,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
家族性先端巨大症罹患アスリートの発掘ー新規原因遺伝子同定への学際的アプローチ	森田博之	内分泌・代謝内科	400,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	道勇学	内科学講座(神経内科)	1,000,000	補 委 厚生労働省
筋萎縮性側索硬化症のmissing heritabilityに関わる遺伝子の探索	中村亮一	内科学講座(神経内科)	1,430,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会
内皮細胞Glycocalyxをターゲットとした腎疾患の新たな治療戦略の確立	伊藤恭彦	腎臓・リウマチ膠原病内科	910,000	補 委 独立行政法人日本学術振興会

フルクトース代謝を標的とした糖尿病性腎臓病の病態解明と新規治療法の開発	石本卓嗣	腎臓・リウマチ膠原病内科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹膜透析におけるガス状伝達物質を用いた新たな腹膜劣化予防・治療法の開発	神谷圭介	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
過剰塩分摂取に起因するCKDにみられる炎症の全身臓器障害の病態解明	鬼無洋	腎臓・リウマチ膠原病内科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ANCA関連血管炎におけるグリコカリクスをバイオマーカーとした新規治療戦略の確立	山口真	腎臓・リウマチ膠原病内科	2,730,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ADAMTS13遺伝子多型ゲノム編集血管内皮細胞の作製と新規白血病治療法の探索	高見昭良	血液内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ゲノム編集を利用したKRAS変異骨髄腫に対する新規治療標的薬の探索	花村一郎	血液内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
PVT1 RNAに着目した新たなリンパ腫の分子病態解明と新規標的治療への応用	水野昌平	血液内科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ヘムオキシゲナーゼ1遺伝子多型ゲノム編集造血幹細胞による生体防御機構の網羅的解析	堀尾知弘	血液内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病神経障害・糖尿病足病変の診断ガイドラインならびに管理法の確立	神谷英紀	糖尿病内科	5,500,000	補委	厚生労働省
糖尿病性多発神経障害におけるinsulin-Notch関連の異常と再生機構の破綻	姫野龍仁	糖尿病内科	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自己免疫性モノアミン合成障害による新規低血圧疾患概念の確立	恒川新	糖尿病内科	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CIDE-A - AMPK経路を標的とした小胞体ストレス関連疾患治療薬の探索	森下啓明	糖尿病内科	1,170,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アミノ酸利用不均衡と異常スフィンゴ脂質蓄積が糖尿病性多発神経障害に及ぼす影響	下田博美	糖尿病内科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
早産児ビリルビン脳症の診療指針の改訂および包括的診療体制の確立	奥村彰久	小児科	5,460,000	補委	厚生労働省

結節性硬化症のてんかんおよび神経発達症に関連するバイオマーカーの検索	奥村彰久	小児科	500,000	補 委	てんかん治療研究振興財団
乳児期発症てんかんの遺伝学的解析に基づく精密医療の基盤構築	奥村彰久	小児科	1,300,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
薬剤耐性・変異株解析可能なリアルタイム次世代シーケンスによる重症感染症迅速診断	伊藤嘉規	小児科	1,300,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
MYRF遺伝子を起点とした発熱時言語異常の病態解明	倉橋宏和	小児科	520,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
MCT8異常症の新規診断法と治療法の開発および政令指定都市を対象とした大規模解析	岩山秀之	小児科	1,300,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
術前からEMSを用いた膵癌サルコペニア予防プログラムの多施設共同開発	深見保之	消化器外科	650,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
血液中循環癌細胞を用いた新しい食道癌・膵癌の術前化学療法モニタリングの確立	齊藤卓也	消化器外科	1,170,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
ロボット支援下手術技術向上における同期模倣学習の有用性についての検討	篠原健太郎	消化器外科	910,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
ICG蛍光マーキングによる非触知乳癌に対する手術ナビゲーションシステムの開発	中野正吾	乳腺・内分泌外科	1,040,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
ヒト乳歯髄幹細胞を用いた膵島オルガノイドによる画期的膵島移植プロトコルの開発	石山宏平	腎移植外科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
慢性硬膜下血腫にたいするエビデンスのある薬剤の解明	青山正寛	脳神経外科	390,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
慢性硬膜下血腫術後のアポトーシス活性化機序の解明と新規治療法の確立	川口 礼雄	脳神経外科	1,300,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
フログラメトリーを用いた4D手術記録システムの開発と教育・実臨床への応用	岩味健一郎	脳神経外科	1,040,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

免疫調整薬による変形性膝関節症の重症化予防効果の検証:動物モデルによる基礎研究	池本竜則	整形外科	1,430,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
解糖系阻害剤は関節滑膜炎の抑制、関節軟骨保護のための新規治療薬となり得るか?	大橋禎史	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
骨強度の観点から女性アスリートの妊娠・出産後の競技復帰を促進するための基礎的研究	松下宏	産科・婦人科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
薄暮時や夜間における視覚障害者の行動評価と視機能との関連	藤田京子	眼科	130,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
網膜神経細胞保護作用を介した新たな網膜色素変性治療の検討	瓶井資弘	眼科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頸部リンパ節における腫瘍免疫環境の解明-免疫学的頸部郭清術の確立を目指して	小川徹也	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺動静脈奇形に対する新たな塞栓術:内腔潤型ハイドロコイルによる標準治療の確立	下平政史	放射線科	2,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ハイドロゲル特性を活用した薬剤溶出能を有する血管塞栓コイルの開発	成田晶子	放射線科	910,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
敗血症病態における血小板減少症への補体系活性化の関与とその治療戦略の開発	渡邊栄三	救命救急科	1,560,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
重症熱傷における血管透過性亢進機序の解明-細胞間接着分子クローディングの解析-	大石大	救命救急科	2,210,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
救急に関する調査研究事業・災害時現場活動における救助医療連携で必要となる狭隘空間における輸液方法と投与速度の検証	苛原隆之	救命救急科	1,000,000	補委	一般財団法人救急振興財団
病院前救護医療に係る調査研究支援事業・ドクターヘリによる心肺停止患者への自動心臓マッサージシステムの効果	寺島嗣明	救命救急科	420,000	補委	認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク
急性呼吸促進症候群に対する造血幹細胞移植:炎症制御と血管再生の試み	加納秀記	救急診療部	1,040,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究	三鴨廣繁	感染症科	8,000,000	補委	厚生労働省
経尿道的膀胱腫瘍切除術(TURBT)時の筋層非浸潤性膀胱癌(NMIBC)の患者を対象としたSPP-005の光線力学診断の用法変更に関する第2相試験における病理中央判定	都築豊徳	病理診断科	429,000	補委	SBIファーマ株式会社
前立腺導管癌の分子生物学的特徴及び治療予測への人工知能の応用	都築豊徳	病理診断科	780,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
リンパ球豊富型およびリンパ球減少型古典的ホジキンリンパ腫の発生機構の解明	佐藤啓	病理診断科	2,340,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
局所進行切除可能HPV陽性中咽頭癌に対する導入化学療法後の低侵襲手術に関する第2相試験	都築豊徳	病理診断科	1,500,000	補委	静岡県がんセンター
痛みセンターを中心とした慢性疼痛診療システムの均てん化と診療データベースの活用による医療向上を目指す研究	牛田享宏	疼痛緩和外科・いたみセンター	6,250,000	補委	厚生労働省
HPVワクチンなどのワクチン接種後に生じる種々の症状についての調査とその対応方法に関する研究	西原真理	疼痛緩和外科・いたみセンター	5,000,000	補委	厚生労働省
就労制限を来たした慢性疼痛患者の就労支援に寄与する多角的包括的研究	井上真輔	疼痛緩和外科・いたみセンター	10,000,000	補委	厚生労働省
ホルモンの変調に起因する運動器の痛みを解明する多面的集学研究	井上真輔	疼痛緩和外科・いたみセンター	2,730,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
若年慢性疼痛における睡眠習慣の調査およびアセスメントツールとしての睡眠検査の検討	尾張慶子	疼痛緩和外科・いたみセンター	520,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経機能評価による三叉神経痛・三叉神経ニューロパチーの治療予測の確立	西須大徳	疼痛緩和外科・いたみセンター	390,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

口腔扁平上皮癌における免疫抑制機構を、がん組織、がん細胞株を用いて免疫抑制関連分子の免疫染色、遺伝子発現、発現たんぱく質の検出により明らかにし、抑制機構の解除に基づいた新たな免疫治療法の開発を目的とする。	林富雄	歯科口腔外科	2,000,000	補 委	日東学術振興財団
血友病関節症の解明と新規治療法開発：骨芽細胞、MSC、メトホルミンに着目して	小川実加	中央臨床検査部	1,170,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
サルコペニアの摂食嚥下障害の評価と介入法確立に関する老年栄養学的臨床研究	前田圭介	栄養治療支援センター	3,250,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

計 65

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Ogasawara N, Kasugai K, Funaki Y, et al.	消化管内科	Relationships between body mass index and constipation, gastroesophageal reflux disease, stool forms based on the Bristol Stool Form Scale, and education level: results from an internet survey in Japan	J Clin Biochem Nutr. 2023 Jul; 73: 84-90.	Original Article
2	Adachi K, Kato S, Koshino A, et al.	消化管内科	A Vonoprazan, Clarithromycin, and Metronidazole Regimen as Helicobacter pylori Eradication Therapy for Patients with Penicillin Allergy in Light of Clarithromycin Resistance.	Intern Med. 2023 Aug; 62: 2301-2306.	Original Article
3	Kasugai K, Ogasawara N.	消化管内科	Gastroesophageal Reflux Disease: Pathophysiology and New Treatment Trends.	Intern Med.2024 Jan; 63: 1-10 .	Review
4	Sugiyama T, Kojima Y, Hirata Y, et al.	消化管内科	Urgent colonoscopy is not necessary in case of colonic diverticular bleeding without extravasation on contrast-enhanced computed tomography	Arab J Gastroenterol. 2024 Feb; 25: 22-27.	Original Article
5	Yamamoto S, Ohashi W, Yamaguchi Y, et al.	消化管内科	Factors Associated with Defecation Satisfaction among Japanese Adults with Chronic Constipation	J Clin Med.2024 May(オンライン)	Original Article
6	Arai J, Ito K	肝胆膵内科	Deciphering the Dual Nature of the FIB-4 Index in Predicting HCC Risk Among Hepatitis B Patients Undergoing Nucleos(t)ide Analog Therapy	Hepatol Res. 2024 Feb; 54 : 120-121.	Others
7	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	A novel dedicated nonslip short-length balloon catheter for treating hepaticojejunostomy anastomotic stricture in balloon enteroscopy-assisted ERCP	Endoscopy. 2023 Dec(オンライン).	Original Article
8	Inoue T, Kitano R, Ibusuki M, et al.	肝胆膵内科	Endoscopic Ultrasound-Guided Naso-gallbladder Drainage Using a Dedicated Catheter for Acute Cholecystitis After Transpapillary Metal Stent Placement for Malignant Biliary Obstruction.	Dig Dis Sci. 2023 Dec; 68 : 4449-4455.	Original Article

9	Inoue T, Kitano R, Ibusuki M, et al.	肝胆膵内科	A novel ultrathin cholangioscope for endoscopic ultrasound-guided antegrade intervention in patients with Roux-en-Y hepaticojejunostomy.	Endoscopy. 2023 Dec.(オンライン)	Original Article
10	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Successful hemostasis and subsequent cannulation using a self-assembling peptide hydrogel for bleeding after precut sphincterotomy.	Endoscopy. 2023 Dec.(オンライン)	Original Article
11	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Successful hemostasis using a self-assembling peptide hydrogel for bleeding after endoscopic papillary large-balloon dilation.	Endoscopy. 2023 Dec(オンライン)	Original Article
12	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	A novel controllable catheter with a short flexible tip for guidewire insertion in severe malignant hilar biliary stricture.	Endoscopy. 2023 Dec(オンライン)	Original Article
13	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Long-term disease control by endobiliary radiofrequency ablation in localized extrahepatic cholangiocarcinoma: a first case report.	Clin J Gastroenterol. 2023 Dec; 16: 908-912.	Case report
14	Inoue T, Kitano R, Ibusuki M, et al.	肝胆膵内科	Endoscopic gallbladder inside-stenting combined with aspirated lavage for calculous cholecystitis in poor surgical candidates: a prospective pilot study	Sci Rep. 2023 Nov(オンライン)	Original Article
15	Inoue T, Ibusuki M, Kitano R, et al.	肝胆膵内科	Comparison of the mechanical properties of retrieval basket catheters for bile duct stones: An experimental study.	Indian J Gastroenterol. 2023 Oct; 42: 651-657.	Original Article
16	Inoue T, Ibusuki M, Kutsumi H.	肝胆膵内科	A Novel Cholangioscopy with a 2.0 mm Large Working Channel for Biliary Targeted Biopsy.	J Gastrointestin Liver Dis. 2023 Sep; 32: 289.	Original Article
17	Inoue T, Yoshida M, Suzuki Y, et al.	肝胆膵内科	Comparison of the long-term outcomes of EUS-guided gallbladder drainage and endoscopic transpapillary gallbladder drainage for calculous cholecystitis in poor surgical candidates: a multicenter propensity score-matched	Gastrointest Endosc. 2023 Sep; 98: 362-370.	Others

18	Inoue T, Ibusuki M, Kutsumi H.	肝胆膵内科	A Novel Non-slip Banded Balloon Catheter for Endoscopic Papillary Balloon Dilation.	J Gastrointestin Liver Dis. 2023 Jun; 32: 142.	Original Article
19	Inoue T, Yoneda M.	肝胆膵内科	Endoscopic intraductal radiofrequency ablation for extrahepatic cholangiocarcinoma: An update (2023).	World J Gastrointest Endosc. 2023 Jun; 15: 440-446.	Review
20	Inoue T, Suzuki Y, Yoshida M, et al.	肝胆膵内科	Long-Term Impact of Endoscopic Gallbladder Stenting for Calculous Cholecystitis in Poor Surgical Candidates: A Multi-center Comparative Study.	Dig Dis Sci. 2023 Apr; 68: 1529-1538.	Others
21	Inoue T, Ibusuki M, Yoneda M.	肝胆膵内科	A novel controllable cannula with a short flexible tip for reintervention after stent-by-stent placement in malignant hilar biliary obstruction.	J Gastrointestin Liver Dis. 2023 Apr; 32: 120-121.	Original Article
22	Inoue T, Kitano R, Ibusuki M, et al.	肝胆膵内科	Endoscopic Ultrasound-Guided Hepaticogastrostomy with Antegrade Stenting Without Dilation Device Application for Malignant Distal Biliary Obstruction in Pancreatic Cancer.	Dig Dis Sci. 2023 May; 68: 2090-2098.	Original Article
23	Ohashi H, Mizukami T, Sonck J, et al	循環器内科	Intravascular Imaging Findings After PCI in Patients With Focal and Diffuse Coronary Artery Disease.	J Am Heart Assoc. 2024 Mar(オンライン)	Original Article
24	Suzuki W, Fujimoto M, Ando H, et al.	循環器内科	A case with assessment of cardiac-coronary interactions with transthoracic echocardiography before and after transcatheter aortic valve replacement.	Eur Heart J Case Rep. 2024 Jan(オンライン)	Case report
25	Nakano Y, Hirano KI, Onishi T, et al.	循環器内科	Prevalence of triglyceride deposit cardiomyovasculopathy among patients with acute coronary syndrome.	Eur Heart J Acute Cardiovasc Care. 2024 Mar; 13: 293-295	Original Article

26	Kuno S, Nakano Y, Suzuki Y, et al.	循環器内科	Impact of general anesthesia on ablation catheter stability during pulmonary vein isolation based on a novel measurement approach.	Sci Rep. 2023 Oct(オンライン)	Original Article
27	Suzuki W, Nakano Y, Ando H, et al.	循環器内科	Association between coronary flow and aortic stenosis during transcatheter aortic valve implantation.	ESC Heart Fail. 2023 Jun; 10: 2031-2041.	Original Article
28	Katano T, Ogisu T, Satou A, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Bird-related non-fibrotic hypersensitivity pneumonitis with bronchoalveolar lavage fluid eosinophilia that developed after COVID-19 vaccination: A case report.	Respirol Case Rep. 2024 Feb(オンライン)	Case report
29	Yonezawa T, Suzuki A, Fukumitsu K, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Acute exacerbation of rheumatoid arthritis-associated interstitial lung disease triggered by COVID-19: What is the best practice for treatment?	Respir Med Case Rep. 2023 Apr(オンライン)	Review
30	Daramjav N, Takagi J, Iwayama H, et al	内分泌・代謝内科	Autoimmune Thyroiditis Shifting from Hashimoto's Thyroiditis to Graves' Disease.	Medicina (Kaunas) 2023 Apr(オンライン)	Original Article
31	Daramjav N, Takagi J, Fujikake A, et al	内分泌・代謝内科	A severe tremor associated with Klinefelter's syndrome. A case report	日本内分泌学会雑誌 Update Proceeding. 2023 May;99 Suppl. 61-63.	Case report
32	Daramjav N, Takagi J, Iwayama H, et al	内分泌・代謝内科	Quetiapine and valproic acid induced central hypothyroidism in patient with autism spectrum disorder and intractable epilepsy: a case report .	Endocr Metab Immune Disord Drug Targets. 2024 Jan(オンライン)	Case report
33	Nakamura R, Tohnai G, Nakatochi M, et al	神経内科	Genetic factors affecting survival in Japanese patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis: a genome-wide association study and verification in iPSC-derived motor neurons from patients.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2023; 94: 816-824.	Original Article
34	Ono S, Hatayama N, Miyamoto K, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Intimal growth on the luminal surface of arteriovenous grafts in rats	Clin Exp Nephrol. 2023 May; 27: 402-410.	Original Article
35	Kuroyanagi Y, Takeda A, Kinashi H, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Galactose-deficient IgA1 Is Involved in IgA Deposition in Renal Grafts Biopsied One Hour after Kidney Transplantation	Intern Med. 2023 Jun; 62: 1581-1589.	Original Article
36	Ito Y, Sun T, Tanaka H, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Tissue Sodium Accumulation Induces Organ Inflammation and Injury in Chronic Kidney Disease	Int J Mol Sci. 2023 May(オンライン)	Review

37	Matsuoka N, Katsuno T, Tagami G, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Granulocyte-colony stimulating factor producing cervical cancer with elevated levels of parathyroid hormone-related protein: a case report and literature review	CEN Case Rep. 2024 Feb; 13: 45-52.	Review
38	Yamaguchi M, Ito M, Sugiyama H, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Malnutrition according to the GLIM criteria with kidney dysfunction is associated with increased mortality in hospitalized patients with cardiovascular disease: A retrospective cohort study	Clin Nutr ESPEN. 2023 Jun; 55:167-173.	Original Article
39	Yamaguchi M, Ito M, Sugiyama H,	腎臓・リウマチ膠原病内科	Time to normalisation of C-reactive protein and incidence of relapse in microscopic polyangiitis: A medical records review study in Japan	Mod Rheumatol. 2023 Dec; 34: 151-156.	Original Article
40	Yamaguchi M, Obayashi T, Kobayashi N, et al.	腎臓・リウマチ膠原病内科	Association between reduced left ventricular ejection fraction and peritoneal dialysis related peritonitis: a single center retrospective cohort study in Japan	Sci Rep. 2023 Dec(オンライン)	Original Article
41	Mizuno S, Takami A, Kawamura K, et al.	血液内科	Allogeneic hematopoietic cell transplantation for acute myeloid leukemia with BCR::ABL1 fusion	EJHaem, 2024 Mar 30; 5: 369-378.	Others
42	Ando T, Kondo M, Asada-Yamada Y, et al.	糖尿病内科	The efficacy of switching basal-bolus insulin therapy to basal insulin-supported oral therapy with a glinide and an -glucosidase inhibitor in patients with type 2 diabetes depends on insulin secretory capacity, but not on blood glucose profiles and insulin dosages prior to the switching	Diabetol Int. 2023 Sep; 15: 99-108.	Original Article
43	Kamiya H, Himeno T, Watarai A, et al.	糖尿病内科	Prevalence and characteristics of diabetic symmetric sensorimotor polyneuropathy in Japanese patients with type 2 diabetes: the Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective study (JDCP study 10)	Diabetol Int. 2024 Jan; 15: 19-27.	Original Article
44	Kamiya H, Himeno T, Watarai A, et al.	糖尿病内科	Prevalence and characteristics of diabetic symmetric sensorimotor polyneuropathy in Japanese patients with type 2 diabetes: The Japan Diabetes Complication and its Prevention Prospective study (JDCP study 10)	J Diabetes Investig. 2024 Feb;12:247-253.	Original Article
45	Miyata J et al	精神神経科	Associations of conservatism and jumping to conclusions biases with aberrant salience and default mode network	Psychiatry and Clinical Neurosciences 2024 78:322-331.	Original Article

46	Fujita K et al	精神神経科	Pre-emptive ice pack cryotherapy for reducing pain caused by long-acting deltoid injectable antipsychotic treatment: A single-center open-label study	Schizophr Res. 2024 Apr;266:19-23.	Original Article
47	Iwayama H, Kawahara K, Takagi M, et al	小児科	Long-term efficacy of nusinersen and its evaluation in adolescent and adult patients with spinal muscular atrophy types 1 and 2	Brain Dev 2023;45:110-6.	Original Article
48	Shinohara K, Hattori M, Ando K, et al	消化器外科	Internal hernia in the medial inguinal fossa with a concurrent indirect inguinal hernia; a case report.	J Surg Case Rep. 2023 Apr(オンライン)	Case report
49	Kato S, Saito T, Kurahashi S, et al.	消化器外科	Simultaneous resection of a neuroendocrine tumor in an incidental Meckel's diverticulum with transabdominal preperitoneal hernial repair: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Jan(オンライン)	Case report
50	Osawa T, Fukami Y, Komatsu S, et al.	消化器外科	Impact of fundus-first laparoscopic cholecystectomy for severe cholecystitis	Surg Endosc. 2023 Aug;37:6129-6134.	Original Article
51	Kunitomo A, Ouchi A, Komori K, et al.	消化器外科	Clinical Impact of Radical Resection of Synchronous and Metachronous Peritoneal Metastases from Colorectal Cancer.	Ann Surg Oncol. 2023 Dec;30:8501-8508.	Original Article
52	Kunitomo A, Ouchi A.	消化器外科	ASO Author Reflections: Localized Synchronous and Metachronous Peritoneal Metastases from Colorectal Cancer-Are They Candidates for Radical Resection?	Ann Surg Oncol. 2023 Dec;30:8520-8521.	Others

53	Sugiyama K, Watanuki H, Tochii M et al.	心臓外科	Isolated Tricuspid Valve Repair and Right Atrial Plication Performed Using a Beating-Heart Technique for Atrial Functional Tricuspid Valve Regurgitation	Open Journal of Thoracic Surgery 2023 Jun; 13: 7-16	Original Article
54	Sugiyama K, Watanuki H, Tochii M et al.	心臓外科	Impact of Direct or Indirect Transfer on Acute Type A Aortic Dissection in The Tokai Region of Japan	J Surg Care, 2023 Dec; 2: 71-78	Original Article
55	Watanuki H, Tochii M, Sugiyama K et al.	心臓外科	Fracture and embolization of a metal stent after a frozen elephant trunk procedure	Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg. 2023 Jun(オンライン)	Case report
56	Sugiyama K, Matsuyama K, Ogino H	心臓外科	Redo mitral valve replacement in an adult with severe pulmonary hypertension resulting from structural valve deterioration and left ventricular outflow tract obstruction and a history of atrioventricular septal defect repair: a case report	J Cardiothorac Surg. 2023 Oct(オンライン)	Case report
57	Sugiyama, K., Ato, F., Watanuki, H et al.	心臓外科	Effective treatment of severe stenosis of the carotid and coronary arteries: a case study.	J Cardiothorac Surg 2023 Jan(オンライン)	Case report
58	Sugiyama K, Fujimoto M, Watanuki H.at.al	心臓外科	Surgical revascularization for severe spasm in the left main coronary artery.	Clin Case Rep. 2023 Jan(オンライン)	Case report
59	Mitsuoka H, Ohta T, Arima T,et al.	血管外科	Calf extra-Fascial compartment area affects calf muscle pumping action: an air plethysmography and computed tomography study	Phlebology. 2023 Jun;38:334-340.	Original Article

60	Orimoto Y, Ishibashi H, Arima T, et al.	血管外科	Long-Term Outcomes of Simple Endovascular Aneurysm Repair Based on the Initial Aortic Diameter	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Jan(オンライン)	Original Article
61	Ido M, Saito M, Banno H, et al.	乳腺・内分泌外科	Clinical performance of digital breast tomosynthesis-guided vacuum-assisted biopsy: a single-institution experience in Japan.	BMC Med Imaging. 2023 Jan(オンライン)	Original Article
62	Saito M, Kato S, Maeda T, et al.	乳腺・内分泌外科	Surgical Management of Breast Cancer Developing Along the Pathway of a Ventriculoperitoneal Shunt: A Case Report.	Am J Case Rep. 2023 Jun(オンライン)	Case report
63	Ito Y, Fujii K, Saito M, et al.	乳腺・内分泌外科	Invasive lobular carcinoma of the breast detected with real-time virtual sonography: a case report.	Surg Case Rep. 2023 May(オンライン)	Case report
64	Saito M, Fujii K, Banno H, et al.	乳腺・内分泌外科	Development of Erythema Nodosum After Olaparib Treatment in a Patient With Recurrent Breast Cancer and BRCA2 Mutation: A Case Report.	Cureus. 2023 Sep(オンライン)	Case report
65	Tetsuya Ioku, Tomotaka Ohshima, Mao Yokota, et al.	脳神経外科	Hairball-Like Migration of "Onyx Threads" into the Draining Vein during Transarterial Embolization of a Dural Arteriovenous Fistula: A Case Report and Experimental Validation.	Neurointervention. 2023 Nov;18:190-194.	Case report
66	Koji Osuka, Yusuke Ohmichi, Mika Ohmichi, et al.	脳神経外科	Angiogenesis in the Outer Membrane of Chronic Subdural Hematomas through Thrombin-Cleaved Osteopontin and the Integrin α 9 and Integrin α 1 Signaling Pathways.	Biomedicines. 2023 May(オンライン)	Original Article

67	Mao Yokota, Koji Osuka, Yusuke Ohmichi, et al.	脳神経外科	Platelet-derived Growth Factor Activates Pericytes in the Microvessels of Chronic Subdural Hematoma Outer Membranes.	Neurol Med Chir. 2024 Jan ;64:50-55.	Original Article
68	Tomotaka Ohshima, Fuminori Ato, Reo Kawaguchi, et al.	脳血管内治療センター	Relationship between Shape Retention and X-ray Absorption Value of the Tip of Microcatheters in Neuroendovascular Treatment.	Asian J Neurosurg. 2024 Feb; 19: 52-57.	Original Article
69	Kenichiro Iwami, Tadashi Watanabe, Koji Osuka, et al.	頭蓋底外科センター	A Combined Exoscopic and Endoscopic Approach for Radical Temporal Bone Resection and Usefulness of the Endoscopic Approach to the Medial Aspect of the Temporal Bone.	J Craniofac Surg. 2023 Nov-Dec; 34: 2261-2267.	Original Article
70	Kenichiro Iwami, Masazumi Fujii, Tadashi Watanabe, et al.	頭蓋底外科センター	Exo- and endoscopic lateral orbital wall approach for the medial temporal lobe glioma: how I do it.	Acta Neurochir. 2024 Feb(オンライン)	Others
71	Tomotaka Ohshima, Shigeru Miyachi.	脳血管内治療センター	Positional Relationship between Two Microcatheters according to the Navigation Sequence within the Curved Vessel in Neuroendovascular Procedures.	Asian J Neurosurg. 2023 Nov; 18: 831-835.	Original Article
72	Kojima S, Ikemoto T, YCP Arai, et al.	整形外科	Associations between Degenerative Lumbar Scoliosis Structures and Pain Distribution in Adults with Chronic Low Back Pain.	Healthcare. 2023 Aug(オンライン)	Original Article
73	Kajita Y, Iwahori Y, Harada Y	整形外科	Clinical outcome and repair integrity after arthroscopic full-thickness rotator cuff repair: Triple-row versus suture-bridge techniques	J Orthop Sci. 2023 Jul;28:778-783.	Original Article
74	Sassa N, Kameya Y, Takahashi T et al	泌尿器科	Creation of synthetic contrast-enhanced computed tomography images using deep neural networks to screen for renal cell carcinoma.	Nagoya J Med Sci. 2023 Nov; 85: 713-724.	Original Article
75	Hanai R, Matsushita H, Minami A, et al.	産科・婦人科	Effects of 10-Hydroxy-2-decenoic Acid and 10-Hydroxydecanoic Acid in Royal Jelly on Bone Metabolism in Ovariectomized Rats: A Pilot Study	J Clin Med. 2023 Aug(オンライン)	Original Article
76	Lin Y, Kojima S, Ishikawa A, et al.	分子標的医薬寄附講座	Inhibition of MLCK mediated migration and invasion in human endometriosis stromal cells by NF- κ B inhibitor DHMEQ.	Mol Med Rep. 2023 June(オンライン)	Original Article
77	Morita N, Matsushita H, Yabushita H, et al.	産科・婦人科	Recurrent serous borderline tumor after fertility-sparing surgery following twin pregnancy and resumption of menstruation.	Cureus. 2024 Jan(オンライン)	Case report

78	Wakatsuki A, Lin Y, Kojima S, et al	産科・婦人科	Inhibitory effects of estetrol on the invasion and migration of immortalized human endometrial stromal cells.	Endocr J. 2024 Feb; 71: 199-206	Original Article
79	Tsuboi K, Mazloumi M, Guo Y, et al.	眼科	Early Sign of Retinal Neovascularization Evolution in Diabetic Retinopathy: A Longitudinal OCT Angiography Study	Ophthalmol Sci. 2023 Aug(オンライン)	Original Article
80	Hamada M, Hirai K, Wakabayashi T, et al.	眼科	Practical Utility of Widefield OCT Angiography to Detect Retinal Neovascularization in Eyes with Proliferative Diabetic Retinopathy	Ophthalmol Retina. 2024 May;8:481-489	Original Article
81	Inukai D, Yokoi H, Yamanaka S, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Dynamic Analysis Of Male "Extra-high Voice" Using Multi-row Detector Computed Tomography.	J Voice. 2023 Sep(オンライン)	Original Article
82	Nakamura H, Ogawa T, Yamanaka S, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Immune Status of Cervical Lymph Nodes in Head and Neck Cancer-A Surgical Oncology Perspective.	J Pers Med. 2023 Jul(オンライン)	Original Article
83	Kuruma T, Arimoto M, Fujimoto Y.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Characteristics and utility of combined duplex color-coded ultrasonography in the cervical rotational position with head MRI and MRA in the differential diagnosis of apogeotropic direction-changing positional nystagmus.	J Otol. 2023 Apr;18:85-90.	Original Article
84	Kawade Y, Uchida Y, Sugiura S, et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Relationship between cognitive domains and hearing ability in memory clinic patients: How did the relationship change after 6 months of introducing a hearing aid?	Auris Nasus Larynx. 2023 Jun;50:343-350.	Original Article
85	Iwami K, Watanabe T, Osuka K ,et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	A Combined Exoscopic and Endoscopic Approach for Radical Temporal Bone Resection and Usefulness of the Endoscopic Approach to the Medial Aspect of the Temporal Bone.	J Craniofac Surg. 2023 Nov-Dec; 34: 2261-2267	Original Article
86	Narita A, Nakano Y, Okada H, et al.	放射線科	In Vitro Characterization of Drug-Loaded Superabsorbent Polymer Microspheres: Absorption and Release Capacity of Contrast Material, Antibiotics and Analgesics	Cardiovasc Intervent Radiol. 2023 Nov;46:1632-1640.	Original Article
87	Ito M, Katano T, Okada H, et al.	放射線科	Subpleural fibrotic interstitial lung abnormalities are implicated in non-small cell lung cancer radiotherapy outcomes.	Radiol Oncol. 2023 Apr;57:229-238.	Original Article
88	Ito M, Yoshioka Y, Takase Y, et al.	放射線科	Stereotactic body radiation therapy for prostate cancer: a study comparing 3-year genitourinary toxicity between CyberKnife and volumetric-modulated arc therapy by propensity score analysis.	Radiat Oncol. 2023 Feb(オンライン)	Original Article

89	Yamamoto T, Maruchi Y, Asai A, et al.	放射線科	Granulomatosis with polyangiitis presenting as multiple renal masses: A case report with MRI findings	Radiol Case Rep. 2023 Jan; 18: 1292-1296.	Case report
90	Yamamoto S, Yamahata A, Mizuta F, et al.	総合診療医学講座	Tu1641 EXERCISE HABITS AND SLEEP QUALITY IN PATIENTS WITH IRRITABLE BOWEL SYNDROME: A PROSPECTIVE STUDY	Gastroenterology. 2023 May; 164:S1069-70.	Others
91	Wakita Y, Maekawa M, Wakita Y.	総合診療医学講座	Comparison between MAGGIC Score and GLIM Criteria as an Assessment Tool of Elderly HFpEF Prognosis. Is There Other Prognostic Factor?	日本循環器学会学術集会抄録集.2024 88; PJ032 -5.	Others
92	Hirai J, Kuruma T, Sakanashi D, et al	感染症科	Lemierre syndrome due to <i>Dialister pneumosintes</i> : A case report.	Infect Drug Resist. 2023; 15: 2763-2771.	Case report
93	Mori N, Hirai J, Asai N, et al	感染症科	Appropriate outcome settings for the effectiveness of oral zinc treatment for Coronavirus Disease-2019.	Clin Infect Dis. 2023 Jun; 76: 2210-2211.	Original Article
94	Hirai J, Mori N, Mikamo H.	感染症科	A man with bright-golden orange phlegm.	Eur J Intern Med. 2023 Sep; 115: 128-129.	Original Article
95	Asai N, Shibata, Nakamura A, et al	感染症科	Three successfully treated cases of <i>Lodderomyces elongisporus</i> fungemia: Case reports and a review of the literature.	Microorganisms 2023(オンライン)	Case report
96	Hirai J, Mori N, Sakanashi D, et al	感染症科	Usefulness of the FilmArray blood culture identification panel for identifying causative pathogens of bone and joint infections.	J Infect Chemother. 2023; 29: 722-725.	Original Article
97	Kato H, Hagihara M, Asai N, et al	感染症科	Efficacy and safety of recombinant human soluble thrombomodulin in patients with sepsis-induced disseminated intravascular coagulation - A meta-analysis.	Thromb Res 2023; 226: 165-172.	Original Article
98	Mori N, Hirai J, Sakanashi D, et al	感染症科	Complicated pyelonephritis caused by <i>Proteus alimenterum</i> in a woman with peritoneal cancer: a case report.	BMC Infect Dis. 2023 May(オンライン)	Case report
99	Mori N, Hirai J, Asai N, et al	感染症科	Efficacy of Bezlotoxumab Against <i>Clostridioides difficile</i> infection: A case-series study at a university hospital in Japan and literature review.	Cureus. 2023 Aug(オンライン)	Case report

100	Kato H, Hagihara M, Asai N, et al	感染症科	A systematic review and meta-analysis of efficacy and safety of isavuconazole for the treatment and prophylaxis of invasive fungal infections.	Mycoses. 2023 Sep; 66: 815-824.	Original Article
101	Kato H, Hagihara M, Asai N, et al	感染症科	Comparison of microbial detection rates in microbial culture methods versus next-generation sequencing in patients with prosthetic joint infection: a systematic review and meta-analysis.	J Orthop Surg Res. 2023 Aug(オンライン)	Original Article
102	Mori N, Hirai J, Ohashi W, et al	感染症科	Clinical efficacy of fidaxomicin and oral metronidazole for treating <i>Clostridioides difficile</i> infection and the associated recurrence rate: A retrospective cohort study.	Antibiotics (Basel). 2023 Aug(オンライン)	Original Article
103	Mori N, Mikamo H, Mukae H, et al	感染症科	Influence of the coronavirus infectious disease 2019 pandemic on infectious disease practice and infection control in Japan: A web questionnaire survey.	J Infect Chemother. 2024 Jan;30:1-6.	Original Article
104	Hirai J, Mori N, Sakanashi D, et al	感染症科	Intra-Abdominal abscess and bacteremia due to <i>Stenotrophomonas maltophilia</i> after total gastrectomy: A case report and literature review.	Infect Drug Resist. 2023 Nov ;16:7197-7204.	Case report
105	Hirai J, Mori N, Sakanashi D, et al	感染症科	Real-world experience of the comparative effectiveness and safety of combination therapy with remdesivir and monoclonal antibodies versus remdesivir alone for patients with mild-to-moderate COVID-19 and immunosuppression: A retrospective single-center study in Aichi, Japan.	Viruses. 2023 Sep(オンライン)	Original Article
106	Hirai J, Mikamo H	感染症科	Tetanus Following Canine Bite in Japan: A Case Report and Literature Review.	Infect. Drug Resist. 2023; 16: 7427-7434	Case report
107	Mori N, Nakamura A, Hirai J, et al	感染症科	Clinical characteristics and antimicrobial susceptibility of <i>Fusobacterium</i> species isolated over 10 years at a Japanese university hospital.	Eur J Clin Microbiol Infect Dis. 2024 Mar; 43: 423-433.	Original Article
108	Hirai J, Mori N, Asai N, et al	感染症科	Necrotizing pneumonia due to <i>Pseudomonas aeruginosa</i> secondary to severe COVID-19 pneumonia.	Clin Case Rep. 2023 Mar (オンライン)	Original Article
109	Takahara T, Satou A, Tsuyuki T, et al.	病理診断科	Endobronchial spread of adenocarcinoma is a distinct pattern of invasion and associated with inferior clinical outcomes in lung adenocarcinoma.	Histopathology. 2024 Mar;84:646-660.	Original Article
110	Ito T, Takahara T, Taniguchi N, et al.	病理診断科	PTEN loss in intraductal carcinoma of the prostate has low incidence in Japanese patients.	Pathol Int. 2023 Nov;73:542-548.	Original Article

111	Satou A, Takahara T, Yamashita D, et al.	病理診断科	Diagnostic Utility of STAT6 and pSTAT6 Immunohistochemistry for Distinguishing Classic Hodgkin Lymphoma and Peripheral T-Cell Lymphoma With Hodgkin and Reed-Sternberg-like Cells.	Am J Surg Pathol. 2023 Aug;47:897-906.	Original Article
112	Taniguchi N, Satou A, Ito T, et al.	病理診断科	Adenocarcinoma arising in branchioma with a KRAS and TP53 mutation.	Pathol Int. 2023 Jul;73:317-322.	Case report
113	Ushida T, Katayama Y, Hiasa Y, et al.	疼痛緩和外科・いたみセンター	Long-Term Safety and Efficacy of Mirogabalin for Central Neuropathic Pain: A Multinational, Phase 3, 52-Week, Open-Label Study in Asia.	Pain Ther. 2023 Aug; 12: 963-978.	Original Article
114	Kato M, Ota A, Ono T, et al.	歯科口腔外科学講座	PDZ-binding kinase inhibitor OTS514 suppresses the proliferation of oral squamous carcinoma cells.	Oral Dis. 2024 Mar;30:223-234.	Original Article
115	Onda M, Ota A, Ito K, et al.	歯科口腔外科学講座	Inhibition of VEGFR2 and EGFR signaling cooperatively suppresses the proliferation of oral squamous cell carcinoma.	Cancer Med. 2023 Aug;12:16416-16430.	Original Article
116	Kubo A, Murakami S, Iwata T.	臨床腫瘍センター	Drug interaction-induced hemolytic anemia; an unresolved diagnostic process.	Intern Med. 2024 Mar;63:631-633.	Original Article
117	Ido M, Fujii K, Mishima M, et al.	臨床腫瘍センター	Comprehensive genomic evaluation of advanced and recurrent breast cancer patients for tailored precision treatments.	BMC Cancer. 2024 Jan(オンライン)	Original Article
118	Tsukiyama I, Iwata T, Takeuchi T, et al.	臨床腫瘍センター	Factors associated with early discontinuation of anamorelin in patients with cancer-associated cachexia.	Support Care Cancer. 2023 Oct(オンライン)	Original Article
119	Tsukiyama I, Iwata T, Takeuchi T, et al.	臨床腫瘍センター	Factors associated with early discontinuation of anamorelin in patients with cancer-associated cachexia.	Support Care Cancer. 2023 Oct (オンライン)	Original Article
120	Kubo A, Murakami S, Iwata T.	臨床腫瘍センター	Drug interaction-induced hemolytic anemia; an unresolved diagnostic process.	Intern Med. 2024 Mar;63:631-633.	Original Article
121	Karnan S, Hanamura I, Ota A, et al.	臨床腫瘍センター	ARK5 enhances cell survival associated with mitochondrial morphological dynamics from fusion to fission in human multiple myeloma cells.	Cell Death Discov. 2024 Jan(オンライン)	Original Article

122	Ishida Y, Maeda K, Murotani K, et al.	栄養部	Body mass index and weight change are associated with mortality in chronic kidney disease: A retrospective cohort study using a Japanese medical claims database.	Nutrition. 2023 Dec(オンライン)	Original Article
123	Ishida Y, Maeda K, Murotani K, et al.	栄養部	Association of body mass index and weight change with death in patients with advanced cancer.	Nutrition. 2023 Nov(オンライン)	Original Article
124	Maeda K, Nagasaka M, Nagano A, et al.	栄養治療支援センター	Ultrasonography for Eating and Swallowing Assessment: A Narrative Review of Integrated Insights for Noninvasive Clinical Practice.	Nutrients. 2023 Aug(オンライン)	Review
125	Nonogaki T, Maeda K, Shimizu A, et al.	薬剤部	Nutrition provided during the final weeks to patients with non-gastrointestinal solid malignancies.	Clin Nutr ESPEN. 2023 Oct;57:494-500.	Original Article
126	Sakaguchi T, Maeda K, Takeuchi T, et al.	緩和ケアセンター	Validity of the diagnostic criteria from the Asian Working Group for Cachexia in advanced cancer.	J Cachexia Sarcopenia Muscle. 2024 Feb;15:370-379.	Original Article
127	Takahashi Y, Kono S, Vaidya A, et al.	眼形成・眼窩・涙道外科	Severe corneal involvement secondary to congenital lower eyelid epiblepharon	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2023 May;261:1451-1457.	Original Article
128	Someda SK, Takahashi Y.	眼形成・眼窩・涙道外科	Dermolipoma in an Unusual Location: A Case Report and Literature Review	Cureus. 2023 May(オンライン)	Case report
129	Takahashi Y, Vaidya A.	眼形成・眼窩・涙道外科	Secondary Effects of Orbital Decompression in Thyroid Eye Disease: A Review	Semin Ophthalmol. 2023 Jul;38:465-474.	Review
130	Takahashi Y, Vaidya A.	眼形成・眼窩・涙道外科	Diagnosis and Management of Dysthyroid Optic Neuropathy	Int Ophthalmol Clin. 2023 Jul;63:233-248.	Original Article
131	Yokoyama T, Someda SK, Kakizaki H, et al.	眼形成・眼窩・涙道外科	Orbital Langerhans Cell Histiocytosis: A Case Report	Cureus. 2023 Jul(オンライン)	Case report
132	Yokoyama T, Someda SK, Vaidya A, et al.	眼形成・眼窩・涙道外科	Differences in patient characteristics between subconjunctival herniated orbital fat in the superotemporal quadrant and the other quadrants: An observational study	Medicine (Baltimore). 2023 Sep(オンライン)	Original Article

133	Someda SK, Miyazaki H, Takahashi Y.	眼形成・眼窩・涙道外科	Multiple CD34-Negative Orbital Solitary Fibrous Tumors in a Pediatric Patient	Ophthalmic Plast Reconstr Surg. 2023 Sep-Oct(オンライン)	Case report
134	Takahashi Y, Vaidya A.	眼形成・眼窩・涙道外科	Immunoglobulin G4-Related Bilateral Palpebral Conjunctival Involvement	J Craniofac Surg. 2023 Oct(オンライン)	Case report
135	Someda SK, Umezawa N, Vaidya A, et al.	眼形成・眼窩・涙道外科	Surgical Outcomes of Bilateral Inferior Rectus Muscle Recession for Restrictive Strabismus Secondary to Thyroid Eye Disease	J Clin Med. 2023 Oct(オンライン)	Original Article

136	Ito M, Vaidya A, Someda SK, et al.	眼形成・眼窩・涙道外科	Lacrimal Gland Abscess: A Case Report	Case Rep Ophthalmol. 2023 Dec;14:679-683.	Case report
137	Takahashi Y, Vaidya A, Kakizaki H.	眼形成・眼窩・涙道外科	Lymphoproliferative disorders in the lacrimal caruncle: report of three cases and review of literature	Orbit. 2023 Dec;42:617-620	Review
138	Miyazaki H, Someda SK, Yokoyama T, et al.	眼形成・眼窩・涙道外科	Orbital Trapdoor Fracture With Extraocular Muscle Entrapment in Adults: A Case Series	Ophthalmic Plast Reconstr Surg. 2024 Jan-Feb;40:70-74.	Original Article
139	Someda SK, Takahashi Y.	眼形成・眼窩・涙道外科	A Comparative Analysis of the Incidence of Pediatric Orbital Fractures Before and During the COVID-19 Pandemic in the Japanese Population	Cureus. 2024 Feb(オンライン)	Original Article
140	Watanabe H, Ohshima Y, Watanabe D.	皮膚科	Therapeutic Effectiveness of Needle Injection Versus Needle-Free Jet Injector System for Botulinum Toxin Type A in Palmar Hyperhidrosis	J Cutan Med Surg. 2023 Sep-Oct;27:481-486.	Original Article
141	Ishiguro A, Iwashita N, Abe M	皮膚科	Recurrence of Quadruple Extramammary Paget's Disease after 12 Years: A Case Report and Literature Review.	Case Rep Dermatol. 2024 Jun;16:149-155.	Case report

計141件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	杉浦春香, 古居剛, 淺香愛他	麻酔科	肺胞蛋白症に対して体外式膜型人工肺補助下で両肺全肺洗浄を施行した1例	日本小児麻酔学会誌. 2023 Oct; 29: 183	Others
2	苛原隆之, 田邊すばる, Umme Salma, 他	救急集中治療医学講座	COVID-19肺炎患者の炎症と栄養代謝動態の特徴に関する検討	外科と代謝・栄養. 2023年12月: 57巻6号, 213-220.	Original Article
3	大石大, 津田雅庸, 苛原隆之, 他	救急集中治療医学講座	眼底診察が診断に有用であった脂肪塞栓症候群の一例	日本外傷学会雑誌. 2023年7月: 37巻3号, 342-347.	Case report
4	苛原隆之, 松村洋輔	救急集中治療医学講座	手術かIVRか、はたまた併用か 外科医やIVR医と協働する前に知っておきたいこと	Beyond ER. 2024年1月: 2: 452-456.	Review
5	渡邊栄三, 尾崎将之, 苛原隆之, 他	救急集中治療医学講座	教室紹介 愛知医科大学医学部 救急集中治療医学講座	補体. 2023年12月: 60巻2号, 180-182.	Others
6	渡邊栄三	救急集中治療医学講座	敗血症性DICと鑑別すべき病態. 連載: 第4回 敗血症診療ガイドライン 2020 DIC診断と治療	Thromb Med. 2023年12月: 13巻4号, 273-279.	Review
7	渡邊栄三	救急集中治療医学講座	敗血症の免疫学 - 免疫麻痺の理解と免疫療法, 今後の課題 - . 特集 ICUで遭遇する免疫異常	INTENSIVIST. 2023年10月: 15巻4号, 617-625.	Review
8	尾崎将之	救急集中治療医学講座	[平時も災害時も慌てない・迷わない これだけは知っておきたい救命救急対応] ありふれた症状に隠れた重病Killer diseaseを見逃さない	産業保健と看護. 2023年5月: 15巻3号, 203-210	Review
9	渡邊 栄三, 武山 直志	救急集中治療医学講座	【微小循環・免疫を制御するリンパを読み解く】敗血症におけるリンパ球PD-1の役割と治療戦略	ICUとCCU. 2023年4月: 47巻4号, 279-286.	Review

10	尾崎将之, 渡邊栄三	救急集中治療医学講座	[徹底ガイド 重症感染症のすべて-研修医からの質問302-] 感染症の診断・治療・病態 感染症における補体活性化	救急・集中治療. 2023年5月: 35巻1号, 139-146.	Others
11	Mano M, Nomura A, Hori R	睡眠科	Association between Rapid Eye Movement Obstructive Sleep Apnea and Metabolic Syndrome in a Japanese Population	Intern Med. 2023 Jul; 62: 1907–1913.	Original Article
12	Mano M, Nomura A, Sasanabe R.	睡眠科	Gender Difference in REM Sleep Behavior Disorder in Japanese Population: Polysomnography and Sleep Questionnaire Study	J Clin Med . 2024 Feb (オンライン)	Original Article
13	都築豊徳	病理診断科	原発不明癌の病理診断と治療	診断病理 (1345-6431) 41巻1号P23-30 (2024.01)	Review
14	都築豊徳	病理診断科	鑑別の森 (第28回) 尿路上皮生検での反応性異型と上皮内癌Answer(1)	病理と臨床 (0287-3745) 42巻1号 P0087-0091 (2024.01)	Others
15	都築豊徳	病理診断科	Think different in the bridge between pathology and clinical site 尿路上皮癌の亜型診断および治療戦略に与える影響	泌尿器外科 (0914-6180) 36巻臨増 P699-700 (2023.08)	Others
16	都築豊徳	病理診断科	[臨床前立腺癌学-基礎・臨床の最新知見-] 病理診断update	日本臨床 (0047-1852) 81巻増刊6臨床前立腺癌学P491-499 (2023.06)	Review
17	都築豊徳	病理診断科	[泌尿器病理 鳥瞰図-近未来の泌尿器腫瘍へズームイン] 上部尿路上皮癌 膀胱の尿路上皮癌と似て非なる病態	臨床泌尿器科 (0385-2393) 77巻7号 P510-516 (2023.06)	Review
18	都築豊徳	病理診断科	[どこまで変わるの? 腎細胞癌診療の進歩] 診断 最新の病理分類 WHO分類のここが変わった	臨床泌尿器科 (0385-2393) 77巻5号 P316-321 (2023.04)	Review
19	榎本 めぐみ, 寺島 舞, 小野内 健太	中央臨床検査部	骨髄像のピットフォール-骨髄浸潤を中心に- 悪性リンパ腫の骨髄浸潤	日本検査血液学会雑誌 2024/02 25 (1) 165-172	Review
20	神谷 妙子, 藤田 雄輝, 仲上 祐也	中央臨床検査部	侵害受容性刺激による瞬目反射の抑制	PAIN RESEARCH 2023/12 38巻 Suppl. Page S51	Others

21	鈴木 崇峰、 黒田 康子、 藤巻 恵理子	中央臨床検査部	院内測定化に向けたテイコプラニン測定 試薬の基礎的検討	Kameraden 2023/11 73号 Page11	Others
22	神谷 妙子、 藤田 雄輝、 仲上 祐也	中央臨床検査部	表皮内刺激電極による瞬目反射のプレ パルス抑制と身体近傍空間の影響	臨床神経生理学 2023/10 51巻5号 Page592	Others
23	柴田 由加、 姫野 龍仁、 谷 浩也	中央臨床検査部	神経障害(2) 超音波検査を用いた糖尿 病性神経障害における末梢神経の形態 解析	糖尿病合併症 2023/09 37巻Suppl.1 Page150	Others
24	寺島 舞、榎 本 めぐみ、 谷 浩也	中央臨床検査部	骨髄塗抹標本作製時EDTA添加の影響 に関する検討	日本検査血液学会雑誌 2023/07 24巻学術集会 Page S160	Others
25	小野内 健 太、榎本 め ぐみ、山口 京子	中央臨床検査部	免疫抑制薬関連偽Pelger-Huet核異常	日本検査血液学会雑誌 2023/07 24巻学術集会 Page 132	Others
26	鈴木 崇峰、 寺島 舞、榎 本 めぐみ	中央臨床検査部	血管肉腫(Angiosarcoma)の骨髄浸潤	日本検査血液学会雑誌 2023/07 24巻学術集会 Page 121	Others
27	藤巻 恵理子、 坂野 容 菜、仲上 祐 也	中央臨床検査部	当院におけるFoundationOneLiquid CDx 検査の現状と管理体制	日本医学検査学会抄録集72回 2023/05 Page349	Others
28	中山享之	中央臨床検査部	[臨床血液学2023-病態理解の深化と今 後の展望(血小板・凝固・線溶疾患)-] von Willebrand病における治療の進歩	臨床血液 2023/05 64(5) 389-396	Review
29	柴田 由加、 姫野 龍仁、 山田 祐一郎	中央臨床検査部	糖尿病性神経障害における超音波を用 いた末梢神経の形態解析	糖尿病 2023/04 66巻Suppl.1 Page S-178	Others
30	木村 結衣、 渡邊 愛佳、 山口 尊聖	輸血部	当院における自己フィブリン糊の調製導 入に向けた取り組み	日本輸血細胞治療学会誌 2023年6月 (1881-3011)69巻3号 Page510-511	Others
31	渡邊 愛佳、 木村 結衣、 山口 尊聖	輸血部	当院におけるDTT処理後の赤血球抗原 の保存性の検討	日本輸血細胞治療学会誌 2023年6月 (1881-3011)69巻3号 Page510	Others

32	山口 尊聖、 渡邊 愛佳、 木村 結衣	輸血部	抗CD38治療薬による偽陽性反応に対する赤血球DTT処理の改良	日本輸血細胞治療学会誌 2023年4月 (1881-3011)69巻2号 Page365	Others
33	林 恵美、高 四強、三輪 祐子	輸血部	自動輸血検査機器による抗A/B抗体価測定導入に向けての検討	日本輸血細胞治療学会誌 2023年4月 (1881-3011)69巻2号 Page364	Others
34	加藤 栄史、 林 恵美、片 井 明子	輸血部	静注用免疫グロブリン製剤における副反応リスク因子の解析	日本輸血細胞治療学会誌 2023年4月 (1881-3011)69巻2号 Page290	Others
35	片井 明子、 高 四強、林 恵美	輸血部	血液凝固分析装置FibCareの測定値の検討	日本輸血細胞治療学会誌 2023年4月 (1881-3011)69巻2号 Page287	Others
36	加藤栄史	愛知医科大学	コロナ禍での認定試験	日本輸血細胞治療学会誌 2023年4月 (1881-3011)69巻2号 Page270	Others
37	柿崎裕彦	眼形成・眼窩・涙道外科	眼付属器外傷 眼瞼外傷 手術の実際	OCULISTA 125号 Page59-64 (2023.08)	Review
38	柿崎裕彦	眼形成・眼窩・涙道外科	甲状腺眼症に対するバイオ治療薬と治療戦略	あたらしい眼科 40巻8号 Page1039-1045 (2023.08)	Review
39	高橋靖弘	眼形成・眼窩・涙道外科	眼窩減圧術・眼瞼手術	眼科 65巻7号 Page623-629 (2023.07)	Review
40	高橋靖弘	眼形成・眼窩・涙道外科	涙小管炎	臨床眼科 77巻11号 Page51-53 (2023.10)	Review
41	渡辺 大輔	皮膚科	带状疱疹ワクチンと带状疱疹の最近の話題	Modern Media 70巻3号70-75 (2024.03)	Review
42	渡辺 大輔	皮膚科	【抗微生物薬のベストな選択】各種疾患における薬剤選択と使い方 単純疱疹・带状疱疹	臨床と研究 101巻3号 309-314 (2024.03)	Review

43	大嶋 雄一郎, 渡辺 瞳, 渡 辺 大輔, 他	皮膚科	無汗症を契機に診断されたGerminomaの 1例	発汗学 30巻2号 29-31 (2023.12)	Case report
44	石黒 暁寛, 竹尾 友宏, 大嶋 雄一郎, 他	皮膚科	アトピー性皮膚炎に対するデュピルマブ からウバダシチニブへの変更に関する治 療効果と投与経路についてのアンケート 調査	皮膚科 5巻2号 216-224 (2024.02)	Original Article
45	内堀 貴文, 大嶋 雄一郎, 渡辺 大輔	皮膚科	右下顎骨骨折で生じたFrey症候群に対 しA型ボツリヌス毒素局所注射が有効で あった1例	皮膚科の臨床 66巻1号 109-112 (2024.01)	Case report
46	内堀 貴文, 柴田 知之, 柳下 武士, 他	皮膚科	Squaric Acid Dibutylester感作部位に生 じた偽リンパ腫を外科的切除により加療し た2例	皮膚科の臨床 66巻3号 328-331 (2024.03)	Case report
47	内堀 貴文, 岩下 宣彦, 石黒 暁寛, 他	皮膚科	初発から15年間にわたり局所再発を繰り 返す左踵部表皮内悪性黒色腫の1例	Skin Cancer 38巻3号 178-183 (2024.02)	Case report
48	渡辺 大輔	皮膚科	【いまさら聞けない!ウイルス感染症診療 マニュアル】いまさら聞けない帯状疱疹 ワクチンのトピックスも含めて	Derma. 342号 1-9 (2023.12)	Review
49	内堀 貴文, 柴田 知之, 大嶋 雄一郎, 他	皮膚科	【日常診療に潜むリンパ腫・リンパ増殖性 疾患-リンパ腫との鑑別が問題になる関 連疾患-】トシリズマブ投与により皮膚病 変が改善した形質細胞型Castleman病の 1例	皮膚科の臨床 65巻12号 1806- 1809 (2023.11)	Case report
50	渡辺 大輔	皮膚科	【2023年なにあった? 今年注目の診療ガ イドライン&新薬・新規効能・新剤形】 Catch Up!新薬・新規効能・新剤形 再発 性の単純疱疹に対するPIT療法でアメナ メビルが適応に!	薬局 74巻13号 2185-2189 (2023.12)	Review
51	渡辺 大輔	皮膚科	【皮膚科医のための性感染症入門】性器 ヘルペス	Derma. 341号 Page49-57 (2023.11)	Review
52	羽田野 詩乃, 柳下 武士, 大嶋 雄一郎, 他	皮膚科	抗IFN- 自己抗体陽性の播種型MAC 症に伴うLocalized Sweet症候群の1例	皮膚科の臨床 65巻11号 1659- 1663 (2023.10)	Case report
53	渡辺 大輔	皮膚科	治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 単純疱疹	日本医事新報 5196号 51 (2023.11)	Review

54	渡辺 大輔	皮膚科	臨床検査アップデート イムノクロマト法を用いた単純ヘルペスウイルス抗原の検出	Modern Media 69巻9号 231-235 (2023.09)	Review
55	山室 周子, 高間 寛之, 柴田 知之, 他	皮膚科	[薬疹]アバタセプトによる乾癬型薬疹にアプレミラストが奏効した1例	皮膚科の臨床 65巻10号 1497-1500 (2023.09)	Case report

56	渡辺 大輔	皮膚科	【妊娠に影響する感染症の最新知識】性器ヘルペス	産婦人科の実際 72巻7号 723-727 (2023.07)	Review
57	渡辺 大輔	皮膚科	【そこが知りたい,皮膚科医の習慣!-1冊まるごと外来陪席!-】(Part2)悩ましい臨床像の診断ルーチン 各種検査 デルマクイックVZVの使用のルーチン	Visual Dermatology 22巻臨時増刊号 30-31 (2023.06)	Review
58	渡辺 大輔	皮膚科	【忍びよる性感染症の脅威とその対策】性感染症 診断・治療 性器ヘルペス	臨床と研究 100巻4号 442-446	Review
59	大嶋 雄一郎, 羽田野 詩乃, 柳下 武士,他	皮膚科	当院における特発性後天性全身性無汗症の統計的検討	発汗学 30巻1号 2-5 (2023.05)	Original Article
60	渡辺 大輔	皮膚科	【最近のトピックス2023】皮膚科医のための臨床トピックス コロナ禍で帯状疱疹は増えた?	臨床皮膚科 77巻5号 142-145 (2023.04)	Review
61	大澤高陽	消化器外科	特集 ラパコレを再考する -腹腔鏡下胆嚢摘出術をマスターするために 安全な腹腔鏡下胆嚢摘出術をめざして -問題となる破格と認識すべきランドマーク.	手術. 2023年9月; 77: 1445-1449.	Original Article

計 61 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1)倫理審査委員会の開催状況

倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 手順書の主な内容 倫理審査業務手順書（委員向け） 総則，用語の定義，審査の流れ，医学部長の責務，医学部長等の責務，倫理委員会の役割 ・ 責務，専門委員会の役割・責務 倫理審査申請者標準業務手順書（研究者向け） 基本的事項，研究者等の責務，研究の適正な実施等，インフォームド・コンセント等，研究により得られた結果等の取り扱い，研究の信頼性確保，重篤な有害事象への対応，個人情報等，試料及び死者の試料・情報に係る基本的責務	
倫理審査委員会の開催状況	年10回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に 印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2)利益相反を管理するための措置

利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・ 規定の主な内容 利益相反の定義，審査対象者，判断基準，自己申告及び利益相反管理体制等	
利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3)臨床研究の倫理に関する講習等の実施

臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
<p>・研修の主な内容</p> <p>1 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について」</p> <p>講師：渡邊大輔教授（医学部倫理委員会委員長）</p> <p>開催日：令和5年7月31日</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

愛知医科大学病院内科専門医プログラム 愛知医科大学小児科研修医（専攻医）プログラム 愛知医科大学皮膚科研修プログラム 愛知医科大学精神科領域専門医研修プログラム 愛知医科大学外科専門研修プログラム 愛知医科大学整形外科専門研修プログラム 愛知医科大学産婦人科専門研修施設群専門研修プログラム 愛知医科大学眼科専門研修プログラム 愛知医科大学病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム 愛知医科大学泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム 脳神経外科専門研修愛知医科大学プログラム 愛知医科大学病院放射線科専門研修プログラム 愛知医科大学病院麻酔科専門研修プログラム 愛知医科大学医学部病理専門研修プログラム 愛知医科大学臨床検査専門研修プログラム 愛知医科大学救急専門医育成プログラム 愛知医科大学形成外科専門研修プログラム 愛知医科大学リハビリテーション科専門研修プログラム 愛知医科大学総合診療専門医プログラム

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	93人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
春日井邦夫	内科	教授	39年	消化管内科,内視鏡センター
伊藤清顕	内科	教授	28年	肝胆膵内科
天野哲也	内科	教授	35年	循環器内科,心不全包括管理センター
伊藤理	内科	教授	30年	呼吸器・アレルギー内科,臨床研究支援センター
高木潤子	内科	教授	30年	内分泌・代謝内科
道勇学	内科	教授	39年	神経内科,脳卒中センター,先制・統合医療包括センター
石本卓嗣	内科	教授	27年	腎臓・リウマチ膠原病内科,総合腎臓病センター
高見昭良	内科	教授	33年	血液内科,造血細胞移植センター,輸血部,細胞治療センター
神谷英紀	内科	教授	29年	糖尿病内科,糖尿病センター,肥満症治療センター
宮田淳	精神科,神経科	教授	25年	精神神経科,こころのケアセンター
奥村彰久	小児科	教授	35年	小児科,てんかんセンター

佐野力	外科	教授	38年	消化器外科,腹部ヘルニアセンター
松山克彦	心臓血管外科	教授	33年	心臓外科
児玉章朗	心臓血管外科	教授	27年	血管外科
福井高幸	呼吸器外科	教授	26年	呼吸科外科,臨床工学部
中野正吾	外科	教授	33年	乳腺・内分泌外科,臨床遺伝診療部
小林孝彰	外科	教授	39年	腎移植外科
渡邊督	脳神経外科	教授	28年	脳神経外科,脳血管内治療センター
高橋伸典	整形外科	教授	27年	整形外科,人工関節センター,スポーツ医科学センター
渡邊大輔	皮膚科	教授	31年	皮膚科
佐々直人	泌尿器科	教授	33年	泌尿器科
渡辺員支	産婦人科	教授	32年	産科・婦人科,周産期母子医療センター
瓶井資弘	眼科	教授	36年	眼科
柿崎裕彦	眼科	教授	28年	眼形成・眼窩・涙道外科
藤本保志	耳鼻咽喉科	教授	34年	耳鼻咽喉科・頭頸部外科,頭蓋底外科センター,総合物流センター
鈴木耕次郎	放射線科	教授	28年	放射線科,中央放射線部
野手英明	麻酔科	教授	17年	麻酔科,周術期集中治療部,中央手術部,中央材料部
前川正人	内科	教授	39年	総合診療科
古川洋志	形成外科	教授	33年	形成外科
渡邊栄三	救急科	教授	27年	救命救急科,救命救急センター
尾川貴洋	リハビリテーション科	教授	17年	リハビリテーション科,リハビリテーション部
篠邊龍二郎	内科	教授	34年	睡眠科,睡眠医療センター
三鴨廣繁	内科	教授	35年	感染症科,感染制御部
都築豊徳	病理診断科	教授	35年	病理診断科,病院病理部
牛田享宏	整形外科	教授	33年	疼痛緩和外科
風岡宜暁	歯科口腔外科	教授	40年	歯科口腔外科
中山享之	内科	教授	31年	中央臨床検査部
加納秀記	救急科	教授	34年	救急診療部
西原真理	精神科,神経科	教授	31年	いたみセンター
山田恭聖	小児科	教授	30年	周産期母子医療センター

久保昭仁	内科	教授	37年	臨床腫瘍センター、臨床腫瘍センター(内科部門)、ゲノム医療センター
岩田崇	外科	准教授	21年	臨床腫瘍センター(外来化学療法部門)
森直治	外科	教授	35年	緩和ケアセンター、栄養部、栄養治療支援センター
原政人	脳神経外科	教授	36年	脊椎脊髄センター
宇佐美潤	内科	准教授	34年	プライマリーケアセンター
丹羽淳一	内科	教授	33年	医療福祉相談部
齋木英資	内科	教授	35年	パーキンソン病総合治療センター
佐々木誠人	内科	教授	35年	炎症性腸疾患センター
吉田昌弘	整形外科	教授	19年	骨盤・四肢外傷センター

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	医療情報部長 深津 博	
管理担当者氏名	医事課 諏訪雄二郎 地域医療連携課 諏訪雄二郎 薬剤部 大西正文 感染管理室 三嶋廣繁	病院管理課 永田大介 医療情報管理課 江村敦史 医療安全管理室 神谷英紀 臨床工学部 福井高幸

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課
		各科診療日誌	病院管理課
		処方せん	薬剤部
		手術記録	中央カルテ室
		看護記録	中央カルテ室
		検査所見記録	中央カルテ室
		エックス線写真	サーバー
		紹介状	中央カルテ室
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	中央カルテ室
		従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院管理課
		高度の医療の研修の実績	病院管理課
		閲覧実績	医療情報管理課
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室

外来カルテ・入院カルテともに、電子カルテとなっている。
病歴資料については一患者一番号でカルテと一体になっている。
診療録の院外持出しは認めていない。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部		

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室
		管理者が有する権限に関する状況	総務・秘書室
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務・秘書室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務・秘書室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 市川光生	
閲覧担当者氏名	病院管理課長 永田大介	
閲覧の求めに応じる場所	・会議室又は諸記録閲覧室	
閲覧の手続の概要 申し出があり次第、上長の承認を得てから閲覧する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延		件
	歯科医師	延		件
	国	延		件
	地方公共団体	延		件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全管理のための基本的な考え方 2. 医療安全管理責任者の設置 3. 安全管理の体制確保のための委員会 4. 医療安全管理室の設置 5. 医療安全管理者の設置 6. セーフティマネージャーの設置 7. 患者相談窓口の設置 8. 医薬品安全管理責任者等の設置 9. 医療機器安全管理責任者等の設置 10. 医療放射線安全管理責任者等の設置 11. 医療事故発生時の対応方法等 12. 安全管理のための職員研修 13. 高難度新規医療技術を用いた医療の提供 14. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 	
医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（ 有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 13 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療の安全管理対策の検討及び推進に関すること 2. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること 3. 2の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに職員への周知に関すること 4. 3の改善のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること 5. 入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること 6. 5の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること 7. 医療の安全管理の情報交換に関すること 8. 医療の安全管理のための教育・研修に関すること 9. その他医療の安全管理に関すること 	
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 57 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全講演会 (2 回) 2. 医薬品・医療機器・医療放射線安全講演会 (2 回) 3. A E Dを使用した心肺蘇生法 (29回) 4. エコーを使用したC Vカテーテル挿入法 (1 回) 5. P I C C 研修 (1 回) 6. 臨床研修医ガイダンス「当院の医療安全管理体制」 (1 回) 7. 新規採用医師ガイダンス (1 回) (指針・マニュアル等の研修) 8. 中途採用職員（看護師除く）ガイダンス (9 回) (指針・マニュアル等の研修) 9. 中途採用看護師ガイダンス (10回) (指針・マニュアル等の研修) 10. 新規採用職員ガイダンス (1 回) (指針・マニュアル等の研修) 	

医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ ・ 無 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 1．医療安全管理マニュアルの改正
 - 2．「過失の有無に関わらず報告すべき23事象」の設置により報告基準を明確にし、報告を促した。
 - 3．転倒・転落防止のための監視装置検討チャートの作成・活用

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>院内感染対策に関する基本的な考え方 院内感染のための委員会及び感染対策関連組織に関する基本的事項 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針 感染の発生状況の報告に関する基本方針 院内感染発生時の対応に関する基本方針 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 その他、院内感染対策推進のために必要な基本方針 本指針は定期的に見直し、感染予防対策委員会の議を経て改正を行っている。</p>	
院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>毎月 1 回第 2 火曜日に定例開催し、次に掲げる事項の審議、報告を実施 感染予防対策の確立に関すること 感染予防の実施、監視及び指導に関すること 感染予防の教育に関すること 感染に関する事故等が発生した場合における原因究明に関すること 院内感染対策のための指針の策定及び変更 その他感染予防に関すること</p>	
従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>感染予防・抗菌薬適正使用に関する講演会（年 2 回） 新規採用者ガイダンス（年 1 回） 研修医オリエンテーション（年 1 回） 新規採用看護師オリエンテーション（年 1 回） IPCベーシック講座（感染対策のビデオ講座）を職員が常時視聴することが可能 委託職員を対象に研修を都度実施</p>	
感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ICTによる病棟ラウンドの実施 ASTによる抗菌薬適正使用に関するラウンドの実施 リンクナースによる感染対策推進活動の実施 SSIサーベイランスの実施 ICUサーベイランスの実施 BSIサーベイランスの実施 全病院サーベイランスの実施 耐性菌サーベイランスの実施</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>Web開催 「薬剤の誤投与に係る死亡事例の分析～医療事故の再発防止に向けた提言～第15号」 （令和5年7月13日～8月31日） 「令和5年度麻薬事故状況」（令和6年2月29日～3月17日）</p>	
<p>医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p>	
<p>・ 手順書の作成（有・無）</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品の採用と医薬品購入 2. 医薬品の管理に関する事 3. 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事 4. 患者に対する与薬および薬剤管理指導業務に関する事 5. 医薬品の安全使用に係わる情報収集・管理・提供に関する事 6. 在宅患者への医薬品使用に関する事 7. 他施設との連携に関する事項 8. 医薬品の安全使用のための業務手順書に関する研修に関する事 9. 未承認新規医薬品等の適正使用に関する事 	
<p>医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備（有・無）</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>難治性の皮膚石灰沈着症を併発した多発筋炎に対するトファシチニブの使用（適応外） 脳表へモジゲリン沈着症に対するデフェリプロンの使用（未承認薬） 治療抵抗性、難治性の間質性肺炎を併発した多発性筋炎/皮膚筋炎に対するミコフェノール酸モフェチルの使用（適応外） など</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>硝子体手術におけるマキユイド®眼注用の供給停止に伴い、ケナコルトA®筋注用関節腔内用を使用できるよう適応外申請の手続きを行った。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 46 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療機器の有効性，安全性に関する事項 2 医療機器の使用法に関する事項 3 医療機器の保守点検に関する事項 4 医療機器の不具合等が発生した場合の対応に関する事項 5 医療機器の使用に関して特に法令遵守すべき事項 	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実施日・機種名・シリアル・点検者 2 定期交換部品内容 3 点検項目に対する結果 4 作動確認 5 総合評価 	
医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)：特記事項なし</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器に関するインシデント・アクシデントの中から，特に使用上の安全性に係る情報をPMDAに報告している。また院内にも通知を出している。 前年度，医療安全管理室と検討した結果，ビデオ喉頭鏡，止血用デバイスの2点をPMDAに報告している。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師・歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理責任者は、医療安全、医薬品安全、医療機器安全及び医療放射線安全について必要な知識を有する副院長（医療安全担当）をもって充てている。 ・医療安全管理責任者は、副院長として病院長の医療安全管理業務を補佐している。 ・医療安全管理責任者は、医療安全管理室の室長として医療安全管理部門を統括している。 ・医療安全管理室員、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者を構成員とする医療安全管理部門会議を毎週開催し、院内の医療安全に関する情報の収集、改善方策の検討、指示等を行っている。 ・医療安全管理委員会の委員長となっている。 ・医療事故発生時の医療問題検討会の委員長となっている。 	
専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（16名）・無
<p>医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品・医療機器等安全性情報とDSUは全病院職員にメールをしている。 ・回収案内に対して迅速に行動している（全病院職員にメール、院内にある在庫の回収等） ・副作用情報の収集を行い、医療安全・院長・PMDAへ報告を行っている。 ・薬剤部員に対して、新規採用医薬品や限定購入医薬品の薬の情報を伝える。 ・供給制限の案内に対して迅速に行動している。（全病院職員へメール、代替品の検討） ・医療安全との連携（インシデントやアクシデントの対策の検討・周知） ・DIニュースや副作用の症例報告ニュースを作成し報告した。 ・供給制限に関する情報を迅速に行動している。（全病院職員へメール、代替品の検討） ・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 <p>以下の方法にて未承認等の医薬品の使用状況を把握し、については必要がある場合には未承認新規医薬品等評価部門への申請を依頼。</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療科からの未承認新規医薬品等評価部門への申請 医師からの使用成績報告書の提出 院内製剤の処方歴 病棟担当薬剤師からの情報提供 調剤室、注射室担当薬剤師からの情報提供 薬剤部（DI室、未承認新規医薬品等評価部門等）への問い合わせ 	

・担当者の指名の有無（・無）

未承認新規医薬品等評価部門長	大西正文
未承認新規医薬品等評価部門委員	牛田享宏，前川正人，大嶋雄一郎，福井高幸，勝啓佑， 金田直樹，島田博之，宇野英理子，黒瀬優輔，杉木壮吉， 深谷さおり
未承認新規医薬品等評価部門事務局	築山純代
未承認新規医薬品等評価委員会委員長	牛田享宏
未承認新規医薬品等評価委員	前川正人，大嶋雄一郎，久保昭仁，神谷英紀，舟橋智美

・担当者の所属・職種：

大西正文	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
牛田享宏	（所属：疼痛緩和外科，職種：医師）
前川正人	（所属：総合診療科，職種：医師）
大嶋雄一郎	（所属：皮膚科，職種：医師）
福井高幸	（所属：呼吸器外科，職種：医師）
勝 啓佑	（所属：臨床工学部，職種：臨床工学技士）
金田直樹	（所属：中央放射線部，職種：診療放射線技師）
島田博之	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
宇野英理子	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
黒瀬優輔	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
杉木壮吉	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
築山純代	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
深谷さおり	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）
久保昭仁	（所属：臨床腫瘍センター，職種：医師）
神谷英紀	（所属：医療安全管理室，職種：医師）
舟橋智美	（所属：薬剤部，職種：薬剤師）

医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： <p>【遵守状況の確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療安全管理院内ラウンドにおいて、スタッフにヒアリング、指導を実施。また、無作為で患者抽出を行い、患者カルテにて説明・同意書の内容、同意取得時の患者家族の理解度についての記載を確認。 <p>【指導の主な内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I・Cの手順が規程どおりに進められているか。 ・I・Cの説明内容が規程どおりとなっているか。 ・説明書及び同意書に規程どおり必要項目は網羅されているか。 ・説明書及び同意書が規程どおり必要な診療行為かどうか。 ・説明書及び同意書の出力、署名、保存方法は規程どおり適切かどうか。 ・I・Cの実施状況についての職員研修会での指導。 	

診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・診療記録不備に対する項目を主治医に通知し、追記および訂正を依頼する。 ・毎週月曜日に各診療科全体の記載不備事項を各診療科部長に通知する。 ・退院サマリー完成率を部長会および医局長会で通知し、記載遅滞診療科を公表する。 ・年4回質的監査を行い診療録管理委員会にて結果を公表し、適切な指導をする。 	
医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（10）名、専任（ ）名、兼任（3）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p>	

・活動の主な内容：

1. 医療の安全を確保するための改善方策に関すること
2. 医療安全管理のための職員の教育・啓発に関すること
3. 医療事故発生時の対応に関すること
4. 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握
5. 職員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認
6. 医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること
7. 医療安全管理に関する院内の連絡調整
8. その他医療安全管理に関する業務

平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

- ・転倒・転落の発生状況を診察内容のモニタリング事項としている。医療安全管理委員会の専門委員会として転倒転落防止対策ワーキングを設置しており、転倒・転落の発生の有無に関わらず定期的にラウンドを実施、転倒・転落発生時には、WGメンバーでヒアリングを行い、院内全体の発生状況を把握して、再発防止策を検討している。
- ・医療安全に関する講演会、研修会でアンケートを実施し、認識や理解度を確認している。
- ・全職員対象に日本医療機能評価機構の「医療安全文化に関する意識調査」を実施し、結果を職種ごとに考察している。

高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・活動の主な内容：

- ・診療科の長から新規申請が行われた場合において、当該申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会（以下「委員会」という）に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求めること。
- ・高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について、委員会が述べた意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請を行った診療科の長に対しその結果を適否結果通知書により通知すること。
- ・実施中の技術について、実施前・1週間後・1月後・3月後・1年後の定期的に、及び死亡時その他必要な場合には、その都度診療録等の記載内容を確認し、当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、確認すること。

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき，及び前項により職員の遵守状況を確認したときは，その内容について病院長に報告すること。
 - ・委員会での審査資料及び議事概要並びに職員の遵守状況の確認記録を審査の日又は確認の日から少なくとも5年間保存すること。
 - ・委員会に係る事務を行うこと。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
 - ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（11件）、及び許可件数（10件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・無 ）
- ・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等評価部門に使用申請書が提出されると評価部門は内容を確認し，未承認新規医薬品等評価委員会へ審議を依頼する。評価委員会の意見を踏まえ，評価部門が適否等について決定し，申請診療科に通知するとともに，病院長へ報告する。未承認新規医薬品等の使用後は，使用成績報告書を診療科から提出いただく。また，部門では定期的にカルテより申請内容から逸脱なく使用されているか確認を行い，病院長へ報告する。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・無 ）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ・無 ）

入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 515 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 24 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

1. 入院患者の死亡例，特異事例の報告状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること
2. 1の報告状況が不十分な場合の研修・指導に関すること

他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：藤田医科大学病院，愛知県がんセンター）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ
（（病院名：藤田医科大学病院，愛知県がんセンター）・無）

・技術的助言の実施状況

1. インシデント報告において，医師の報告率が目標とする 10%以下であり，医療安全文化調査への参加率も低いため，医師の意識を高めるための具体策を検討し，取り組んでほしいとの助言及び，インシデント報告において，医師の報告割合を継続して 10%を超えるよう工夫してほしいとの助言があった。

他の職種から報告があったインシデント事案において，医師が関与している場合は，医療安全管理室から関与した医師に対し，インシデント報告を促すメールを送信している。

報告すべき事象を具体化した「過失の有無に関わらず報告すべき 23 事象」を設け，該当する事象が発生した場合には，病院職員は必ず報告することとしている。

臨床研修医の修了要件として，年間 10 件以上，修了までに 20 件以上のインシデント報告の提出を義務付け，報告促進している。

2. 医療安全管理委員会の業務において，医療安全管理室員による計画的な定期ラウンド（週に数回）を実施してほしいとの助言があった。

医療安全管理部門が週 2 回程度定期的にラウンドを実施している。

3. 採用品目や院内調剤が多いため，取り間違えの軽減，期限管理，盗難搾取の観点から，整理整頓することや機械化による解決を検討してほしいとの助言があった。

取り間違えの軽減対策として PDA の導入に取り掛かった。また，機械化については予算要求を行う。期限管理については，使用期限が概ね 6 か月未満のものは表記している。盗難搾取対策については，毒薬・向精神薬等は監視カメラを設置した。

4. 1 日 1,000 件を超える院内処方調剤しており，さらに患者の待ち時間を 20 分以内とする目標を掲げていることから，薬剤師にかかる負担が大きいため薬剤師の負担を軽減できる取り組みをさらに進めてほしいとの助言があった。

調剤業務に PDA 端末を導入し，安全管理をした上で非薬剤師（SPD）へのタスクシフトにより薬剤部の業務負担の軽減を行っている。

当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

患者相談窓口を中央棟 1 階 15 番窓口に設置している。

担当者は、看護師、薬剤師、社会福祉士又はその他医療有資格者等としている。

責任者は、医療安全管理責任者（医療安全担当副院長）としている。

対応時間は、月曜日から金曜日（祝日・休日・年末年始を除く）午前 8 時 30 分から午後 5 時 15 分までとしている。

患者・家族等からの苦情・相談については病院長に報告するとともに、関係部署に対しても報告し、速やかな解決に向けた連絡調整を行っている。

担当者及び関係者の守秘義務について医療安全管理マニュアルに明記している。

担当者及び関係者は、苦情・相談により患者や家族が不利益を受けないよう適切な配慮をしなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。

担当者及び関係者は、患者、家族等からの苦情・相談内容の秘密保護に努めなければならないことを医療安全管理マニュアルに明記している。

患者相談窓口があることについて、ホームページ、院内掲示や入院・外来パンフレットにより患者・家族に案内している。

職員研修の実施状況

・研修の実施状況

- 医療安全管理に係る職員研修実施要領において、研修項目として次の事項を定めている。

《医療安全管理に関する職員研修》

- ・ インシデント報告、アクシデント報告等の流れ、医療安全に係る具体的事例の改善策等に関する事項
- ・ インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の遵守状況に関する事項
- ・ 診療録管理規程の遵守状況に関する事項
- ・ 職員の安全意識の状況に関する事項
- ・ 医療安全に資する診療内容のモニタリングに関する事項
- ・ 高難度新規医療技術の提供に関する規程の遵守状況に関する事項
- ・ 未承認新規医薬品等の使用に関する規程の遵守状況に関する事項
- ・ 医療安全の確保に関する監査委員会からの意見に関する事項

- ・ 全死亡例報告，特異事例報告に関する事項
- ・ 私立大学病院相互ラウンドに関する事項
- ・ 患者相談に関する事項
- ・ 病院機能評価による評価を踏まえた医療安全の確保に必要な措置に関する事項
- ・ 医療安全に関する情報提供受付窓口の使用方法に関する事項
- ・ 医師，歯科医師，薬剤師，看護師その他の職員が連携及び協働して医療を提供するために必要な知識及び技能であって，高度の医療を提供するために必要な事項

《医薬品の安全使用に関する職員研修》

- ・ 医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項
- ・ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項
- ・ 医薬品による副作用等が発生した場合の対応(施設内での報告，行政機関への報告等)に関する事項

《医療機器の安全使用に関する職員研修》

- ・ 新しい医療機器の導入時の研修
- ・ 医療機器の有効性・安全性に関する事項
- ・ 医療機器の使用方法に関する事項
- ・ 医療機器の保守点検に関する事項
- ・ 医療機器の不具合等が発生した場合の対応(院内での報告，行政機関への報告等)に関する事項
- ・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項

- 開催頻度は，医療安全管理に関する職員研修は年に2回程度。医薬品・医療機器の安全使用に関する職員研修は必要に応じて実施しており，病院長等の講義，院内での報告会，事例分析，外部講師を招聘しての講習，外部の講習会・研修会の伝達報告会又は有益な文献の抄読等の方法によって行っている。
- 医療安全管理に関する職員研修に欠席した職員については，DVD鑑賞，e-learning等を活用して，全ての病院職員に研修内容の周知を図っている。

(注) 前年度の実績を記載すること(の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

管理者：

令和6年2月6日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療安全管理責任者：

令和6年1月9日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医薬品安全管理責任者：

令和5年12月15日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

医療機器安全管理責任者：

令和6年1月9日 特定機能病院管理者研修受講（公益財団法人 日本医療機能評価機構）

（注）前年度の実績を記載すること

医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する一般病院3の認定を受けている。

（認定期間：2022年5月6日から2025年10月16日まで）

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにて公表している。

・評価を踏まえ講じた措置

職員を対象とした心肺蘇生訓練について、受講率の向上に取り組むよう指摘を受けたため、全病院職員がBLS研修を受講するよう計画を策定し、継続して研修を実施している。

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ol style="list-style-type: none"> 1 臨床医学部門の教授（大学附属施設，医学部附属施設及び研究所の臨床医学系教授を含む。）であること 2 医療安全管理業務の経験，患者安全を第一に考える姿勢・指導力等の医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有すること 3 医療機関等における経営管理に関する識見並びに組織管理経験等を含んだ組織管理能力等の病院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有すること 4 病院が懸案とする当面の課題を解決する意欲及び能力を有すること ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 ） ・ 公表の方法 ホームページにて公表している。

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有・無 ） ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無
				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無		
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>一 病院の運営方針に関すること 二 病院の中期計画に関すること 三 病院内の諸規則及び制度の制定及び改廃に関すること 四 各種の委員会の設置及び改廃に関すること 五 病院の予算及び決算に関すること 六 病院職員の人事に関すること。ただし、病院事務職員は除く 七 病室及び病床等の運用に関すること 八 医学部学生、看護学生等の臨床実習に関すること 九 臨床研修医の研修に関すること 十 その他病院の運営に関する重要事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>医局長会、看護師長会、業務連絡会等を通じて周知している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (を付す)	職種	役職
道勇 学	○	医師	病院長
天野哲也		医師	副院長
加納秀記		医師	副院長
牛田享宏		医師	副院長
都築豊徳		医師	副院長
藤本保志		医師	副院長
中野正吾		医師	副院長
神谷英紀		医師	副院長
井上里恵		看護師	副院長
三木篤也		医師	眼科クリニック MiRAIクリニック長
羽生田正行		医師	メディカルセンター 病院長
春日井邦夫		医師	部長（消化管内科）

伊藤清顕		医師	部長（肝胆膵内科）
伊藤 理		医師	部長（呼吸器・アレルギー内科）
石本卓嗣		医師	部長（腎臓・リウマチ膠原病内科）
高見昭良		医師	部長（血液内科）
宮田 淳		医師	部長（精神神経科）
奥村彰久		医師	部長（小児科）
佐野 力		医師	部長（消化器外科）
松山克彦		医師	部長（心臓外科）
児玉章朗		医師	部長（血管外科）
福井高幸		医師	部長（呼吸器外科）
小林孝彰		医師	部長（腎移植外科）
渡邊 督		医師	部長（脳神経外科）
高橋伸典		医師	部長（整形外科）
渡邊大輔		医師	部長（皮膚科）
佐々直人		医師	部長（泌尿器科）
渡邊員支		医師	部長（産科・婦人科）
瓶井資弘		医師	部長（眼科）
柿崎裕彦		医師	部長（眼形成・眼窩・涙道外科）
鈴木耕次郎		医師	部長（放射線科）
野手英明		医師	部長（麻酔科）
前川正人		医師	部長（総合診療科）
古川洋志		医師	部長（形成外科）
渡邊栄三		医師	部長（救命救急科）
尾川貴洋		医師	部長（リハビリテーション科）
篠邊龍二郎		医師	部長（睡眠科）
三嶋廣繁		医師	部長（感染症科）
風岡宜暁		医師	部長（歯科口腔外科）
中山享之		医師	部長（輸血部）
西原真理		医師	部長（いたみセンター）
山田恭聖		医師	部長（周産期母子医療センター）
久保昭仁		医師	部長（臨床腫瘍センター）
岩田 崇		医師	部長（臨床腫瘍センター）
森 直治		医師	部長（緩和ケアセンター）
原 政人		医師	部長（脊椎脊髄センター）
宇佐美潤		医師	部長（プライマリケアセンター）
丹羽淳一		医師	部長（医療福祉相談）

			部)
齋木英資		医師	部長(パーキンソン病総合治療センター)
佐々木誠人		医師	部長(炎症性腸疾患センター)
吉田昌弘		医師	部長(骨盤・四肢外傷センター)
中村幸男		医師	部長(骨粗鬆症・ロコモ・関節疾患センター)
奥村将年		医師	部長(NP部)
深津 博		医師	部長(医療情報部)
大西正文		薬剤師	部長(薬剤部)
市川光生		事務職員	部長(病院事務部)
矢内亨扶		事務職員	部長(医事管理部)

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・ ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容
- 1 「事務決裁規程」等において、病院長の人事権限等を明確化している。
- 2 「法人の経理に関する権限の委任及び専決の取扱基準」において、病院長の予算執行権限を明確化している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

職名：副院長

役割：

- 一 病院の経営企画に関すること
- 二 医療安全管理・院内感染対策に関すること
- 三 地域医療連携に関すること
- 四 がんに関する診療連携等の統括・推進に関すること
- 五 卒後臨床研修・専門医制度に関すること
- 六 病院の広報に関すること
- 七 救急医療・災害医療に関すること
- 八 医療情報の管理・運用に関すること
- 九 チーム医療に関すること
- 十 看護に関すること
- 十一 その他病院長が必要と認めた業務

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

SD実施計画に基づき、次のとおり研修会等を受講させている。
学内：執行部SD，管理職SD，目標管理評価者研修，コミュニケーション実践研修 など
学外：病院長・幹部職員セミナー，病院長・副院長のためのトップマネジメント研修，愛知県労働協会主催セミナー，病院中堅職員育成研修 など

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無				
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全管理責任者，医療安全管理部門，医療安全管理委員会，医薬品安全管理責任者，医療機器安全管理責任者，医療放射線安全管理責任者等の業務の状況について病院長等から報告を求め，又は必要に応じて自ら確認を実施すること。 ・ 必要に応じ，理事長又は病院長に対し，医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を表明すること。 <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）</p> <p>・ 公表の方法： ホームページにて公表している。</p>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （ を付 す ）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
黒神聰	愛知学院大学 名誉教授		法律学に関する 専門知識に基づ いて，教育，研 究又は業務を行 っている者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
金森俊輔	瀬戸旭医師会 会長		医療機関におい て医療安全に関 する業務に従事 した経験を持つ 者又は医療安全 に係る研究に従 事した経験を有 する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
浦川正	長久手市・副市 長		医療等の内容及 び説明並びに同 意文書が一般的	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

			に理解できる内容であるか等、医療を受ける立場から意見を述べるることができる者		
祖父江元	愛知医科大学		愛知医科大学学長	有・無	3
笠井謙次	愛知医科大学		愛知医科大学医学部長	有・無	3

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

業務活動が法令並びに本学の方針，計画，制度及び諸規則に準拠し，適正に行われているか監査する体制が整っている。

・ 専門部署の設置の有無（ ・無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ ・無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 有・ ）

・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p style="margin-left: 20px;">病院の管理運営状況の監督については、病院の開設者である理事長を含む常任理事会が、定期的に報告される病院運営状況について検討を行い、必要に応じて理事会に報告を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（ 年 30 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="checkbox"/>・無 ）（ 年 30 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有・<input checked="" type="checkbox"/> ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 周知の方法 職員用ホームページにて周知している。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>方法：リーフレットの配布・掲示，ホームページ，広報誌，SNS活用（X，Instagram）など</p> <p>内容：当院の医療連携上の役割，前方，後方連携の協力要請など</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>外来において，循環器内科と心臓外科・血管外科，消化管内科・肝胆膵内科と消化器外科などの関連する診療科を同じブロックに配置し，共同診療に配慮している。</p> <p>診療科間で依頼箋により情報交換し，専門分野の診療を共同して行っている。入院診療においては，共同カンファレンスを行って診療している。</p> <p>疾患の必要に応じて，複数の診療科による共同の手術を行っている。</p> <p>救命救急センターにおいて，救命救急科と専門診療科が毎朝カンファレンスを行い，連携して診療に当たっている。</p>	